イエス 前編

安彦良和

JESUS

NHK出版

イエス
［前編］
安彦良和
JESUS

イエス｜前編｜目次

※本書の中で、聖書より引かれた言葉がある場合、
† 印を付け、欄外にその出典箇所を明記した。

ちくしょおおお

どうして
こんなことになって
しまったんだ……！

イエス時代のパレスチナ

アビレネ
アビラ
ダマスコ
レバノン山
シドン
フェニキア
シリア
サレプタ
イツリヤ
ヘルモン山
ダン
パネアス
ピリポ・カイザリヤ
ツロ
地中海
テラコニテ
トレマイ
ガリラヤ
コラジン
ベッサイダ
ヨタパタ
カナ
ラファナ
セポリス
カルメル山
ナザレ
タボル山
エスドラエロンの平野
ナイン
ヒッポス
ガダラ
アビラ
カイザリヤ
サマリア
シャロンの野
ヨルダン川
デカポリス
サマリア
エバル山
シケム
ゲリジム山
ゲラサ
アポロニア
アンテパトリス
ヨッパ
アリマタヤ
ペレア
ルダ
エフライム
ラマ
エリコ
エマオ
クムラン
エルサレム
ベタニア
ベツレヘム
フィラデルヒア
アスカロン
ユダヤ
マレサ
マカエルス
ヘブロン
ユダの荒野
死海
ガザ
アラビア
ラフィア
ベエルシェバ
マサダ
イドマヤ
0　30km
------ 領地境界

オレはただ
言われたことを
言われたとおりに
しただけなのに…

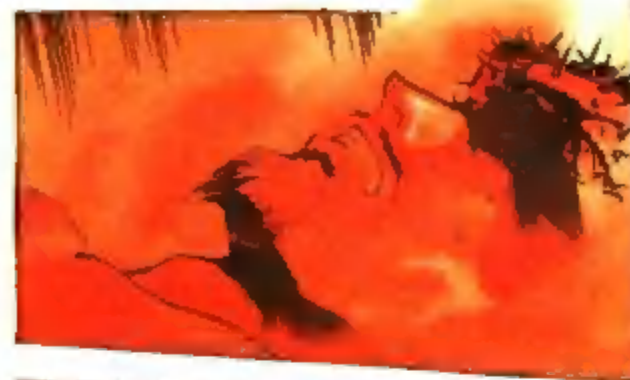
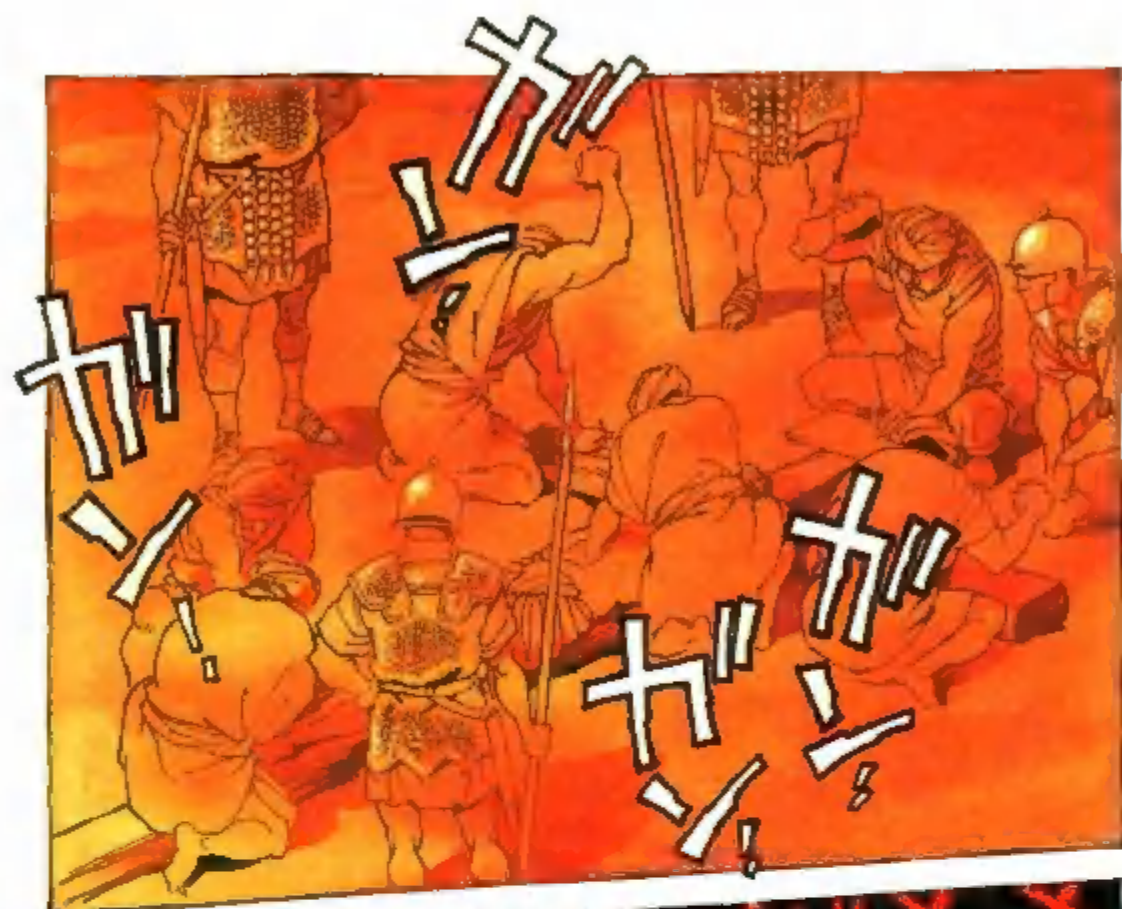
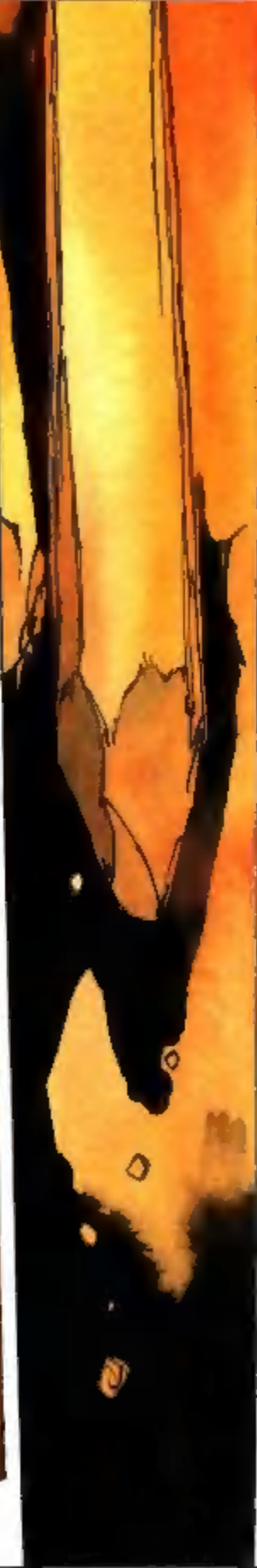
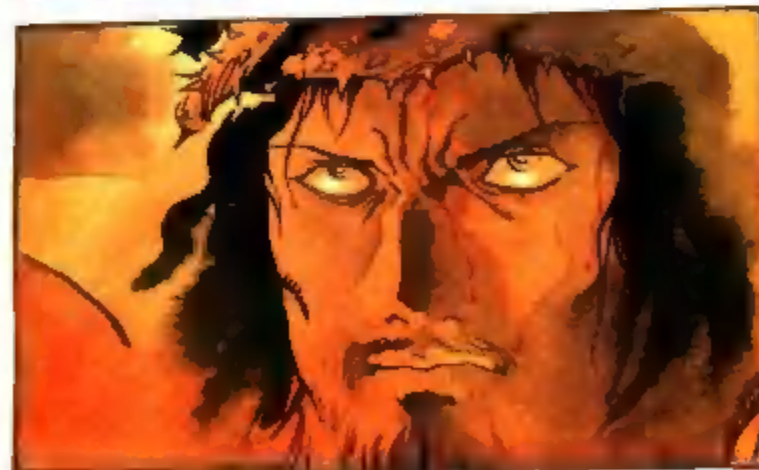
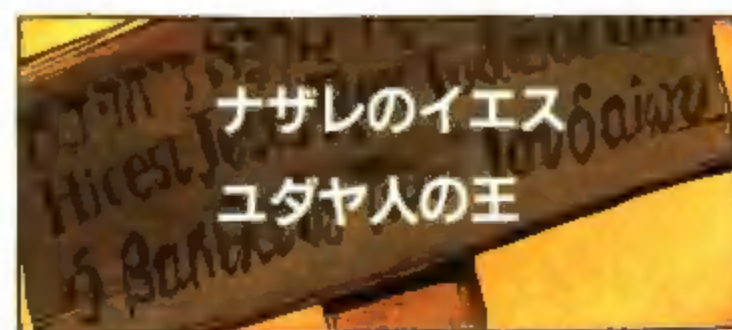
痛い……
苦しい……
助けてくれ……

助けてくれ
イエス
こんな惨めなかっこうで死ぬなんて
いやだ――!!

イエス!!

ガン!
ガン!
カン!!
ガン!
カン!
ガン!
カン!

ゴト

ナザレのイエス
ユダヤ人の王

イエスとその時代

救世主「キリスト」と呼ばれたナザレ人イエスは紀元前4年頃に生まれた。クリスマス聖歌で有名なベツレヘムではなく、生地はナザレを含む、ガリラヤのどこかであったらしい。

ガリラヤは淡水の湖ガリラヤ湖の周囲に広がる豊かな土地だ。古来交通の要地であり、パレスチナの穀倉でもあった。しかし、聖都エルサレムから見ればそこは異邦人達の混住する片田舎であり、闘争の絶えない面倒な場所だった。

いつのころからか熱心党と呼ばれるようになったユダヤ教原理主義者の武闘組織は、このガリラヤを根拠地としていた。彼らはローマ帝国に屈服した王族や高位の聖職者達を憎み、しばしば反乱を引き起こした。早くに死んだとされるイエスの父ヨセフも、そうした争いの渦中に、あるいはあったのかもしれない。

母マリアはヨセフとの結婚前に既に身籠もっていたとされる。そこから処女降誕の神話や、イエス私生児説が生まれるが、無論本当のことはわからない。時は大王ヘロデの治世の最末期。父ヨセフの職業は大工だった。

成人した後三十歳前後で、イエスは家を出て宗教者となる。折しもヨルダン渓谷では預言者ヨハネが謹厳な布教活動をしていた。彼は当時ガリラヤの君主になっていた大王の子ヘロデ・アンテパスの政治と私生活を批判し、神の国の到来というひとつの終末が間近いことを告げ知らせた。イエスは彼から洗礼を受け、荒野での修行の後、教師（ラビ）として故郷ガリラヤで教えを説くことになる。

モーゼに率いられた「出エジプト」に発し、ダビデ、ソロモンの時代に隆盛をみたユダヤ人の王国は紀元前五百年代に既に滅ぼされていた。その後裔を自任する大王ヘロデは幾多の都市や壮麗なエルサレムの神殿を建てたが、圧政の上に立つ栄華は彼一代のものでしかなく、死後王国は分裂して聖都を含むユダヤの地はローマの直轄地となった。

同様に彼らの宗教ユダヤ教もまた混迷を深めていた。世俗化と硬直化というふたつの傾向が、煩瑣な戒律を特徴とするこの宗教を両端から蝕んでいた。

神殿に依った伝統的勢力はサドカイ派と呼ばれた。大祭司を頂点とする権力構造を彼らはかたちづくり、王権と、次いではローマ帝国と和して常に延命を策していた。他の諸分派はこれに反発した。「死海文書」のクムラン教団で知られるエッセネ派は極端な禁欲主義を採って俗界を捨てた。しかし大勢は違った。彼らはあくまで律法に従って現世を変え、大衆を導いてローマを排除し、往時のユダヤ王国を再構築したいと願ったのだ。そうした一大勢力の総称がパリサイ派であり、熱心党はその最強硬派だった。

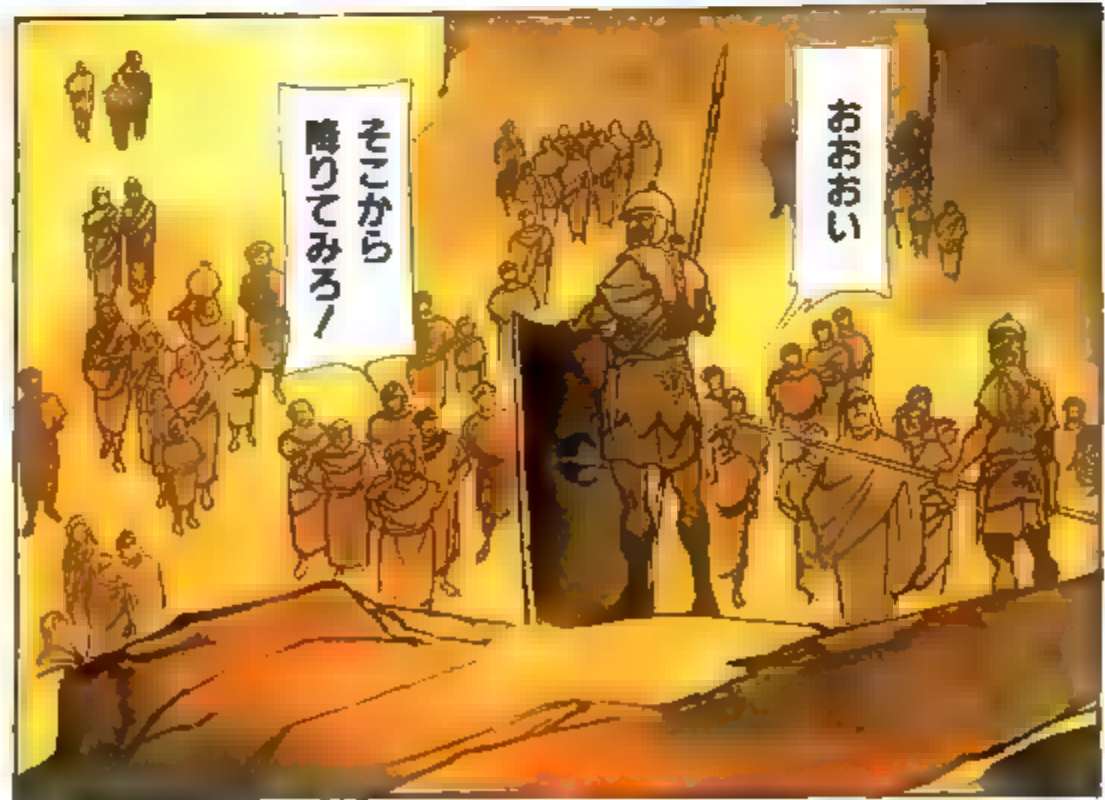
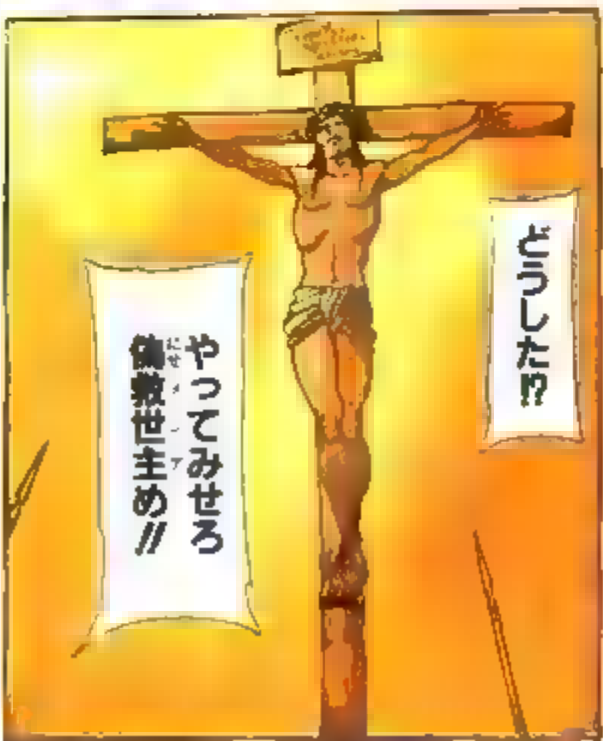
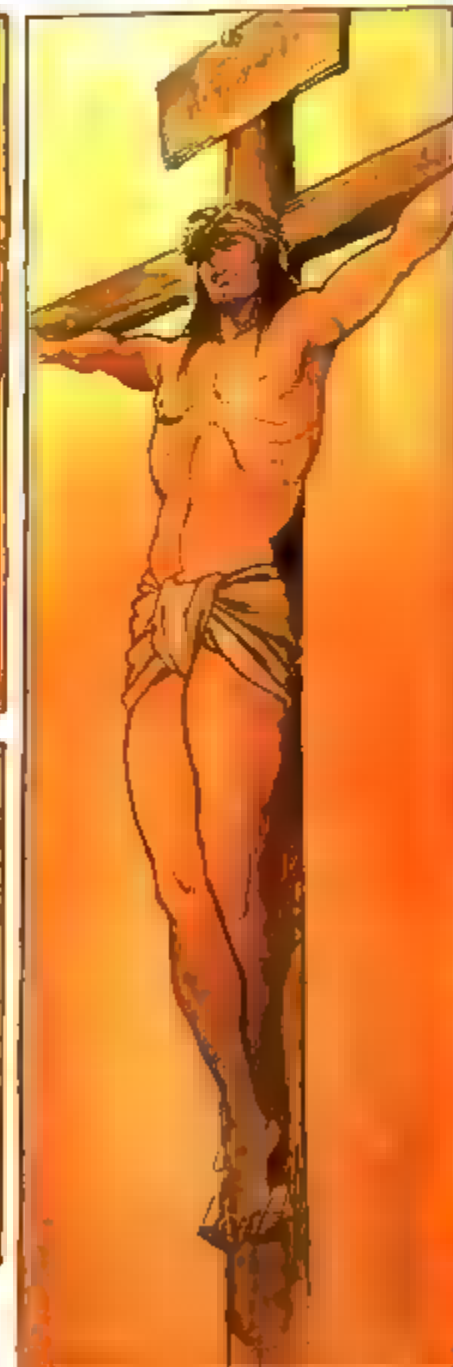
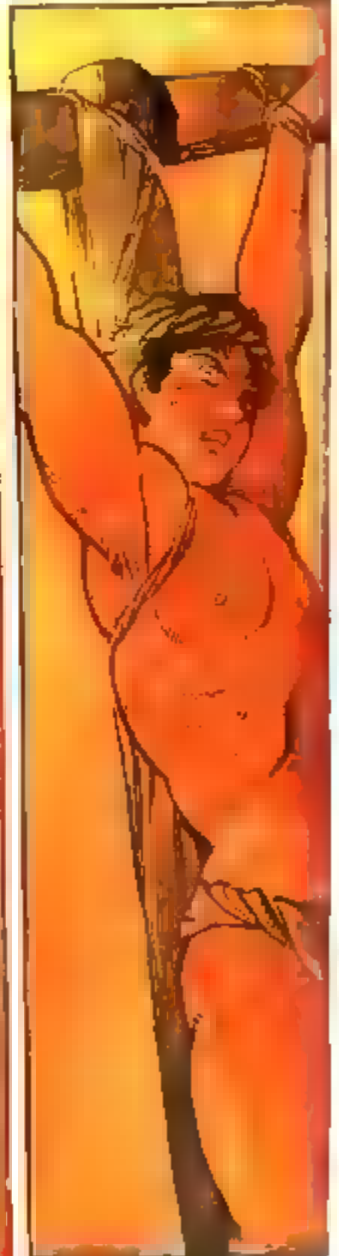
イエスはパリサイ派に位置した。

しかし、同時に彼は厳しい内部批判者でもあった。彼はヨハネの弟子として、彼と同じように悔い改めを説き、不正を告発し、怠惰や偽善を戒め、神の国の到来を説きながら、その反面で形にはまりすぎた律法解釈をしりぞけた。その行動は旧来の教師の範疇を逸脱し、その大胆な主張はパリサイ派の主流から彼を浮かびあがらせ、都のサドカイ派にも強い警戒心を抱かせた。

民族の危難の時に現れ、民族を率いて神の国を招くものが救世主である。王ダビデの再来である。その顕現を心から願う人々はイエスこそは救世主＝キリストと見た。熱血の地ガリラヤからイエスは運命の路へ歩を踏み出す。

第1章
カファルナウム

おおおい
そこから降りてみろ！

人を救ける人!!
奇蹟を起こして自分を救けてみろ!!

神殿を壊して三日で建て直してみせると言ったそうだな！
たいしたものだ！
それなら十字架から降りるくらい造作もなかろう！

どうした!?
やってみせろ偽救世主め!!

……
なんとか……言え
なにをもったいぶっていやがるんだ!
はやく呪文でもとなえろこのヤロォ!!
神でもサタンでもいいから呼んでくれえ!!
たのむう〜〜〜
人殺し野郎が泣いてるぜ
そうだ!
そいつの言うとおりだ!

天の国の軍隊が
降りて来てあんたを
救けるんだろう！
遠慮せずにはやく
来てもらえよ！
間に合わなくなるぞ！

そ
そうだよ！
やるんならはやく
やってくれよ
息がつまるよ
苦しいよ
おい たのむよ
救世主さん!!

アゼル…

いまさらなにを
言ってやがるんだ！
この人のことを
馬鹿にしていたくせに！
偽預言者だと言っ
ていたくせに！

大嘘つきの
いくじなしだから
石打ちにして
殺してしまえと
言ったくせに！
あああ…
でも
みんなは
なにをして
いるんだ！
オレたちが
こんな目にあって
いるのに！

仲間は…

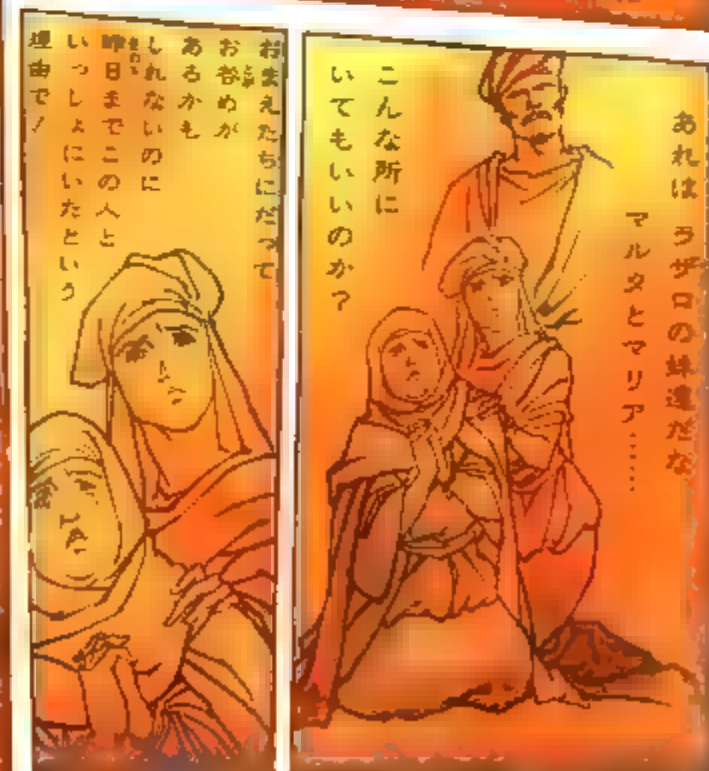
ペトロは？
ヨハネは？
ヤコブは？
アンデレは？
シモンは!?

誰もいない……

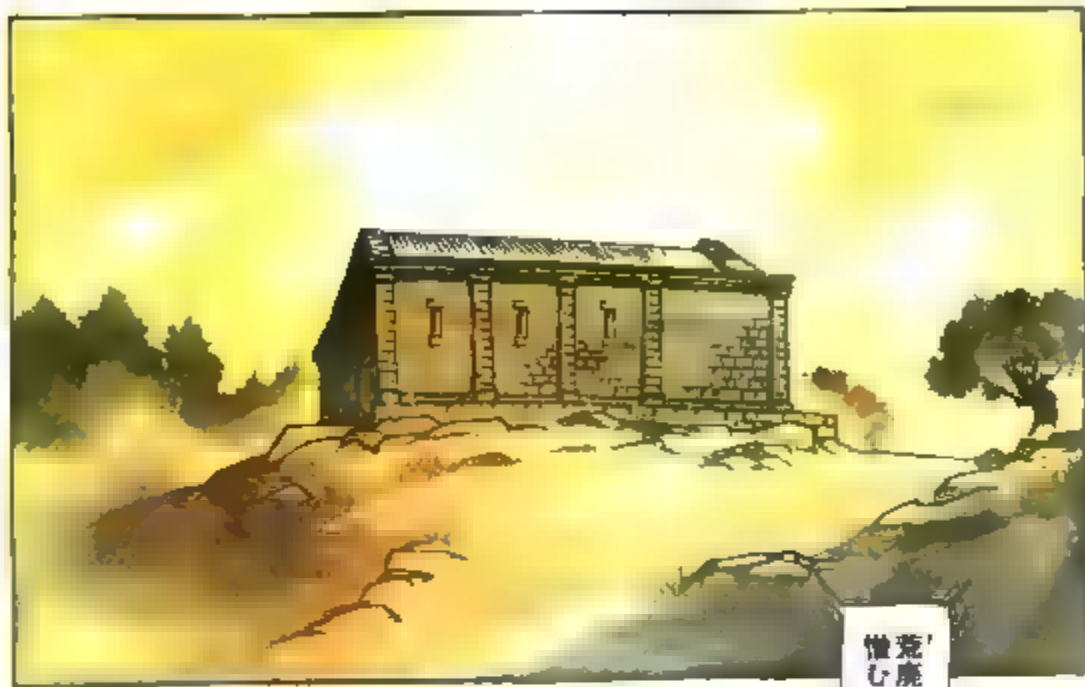
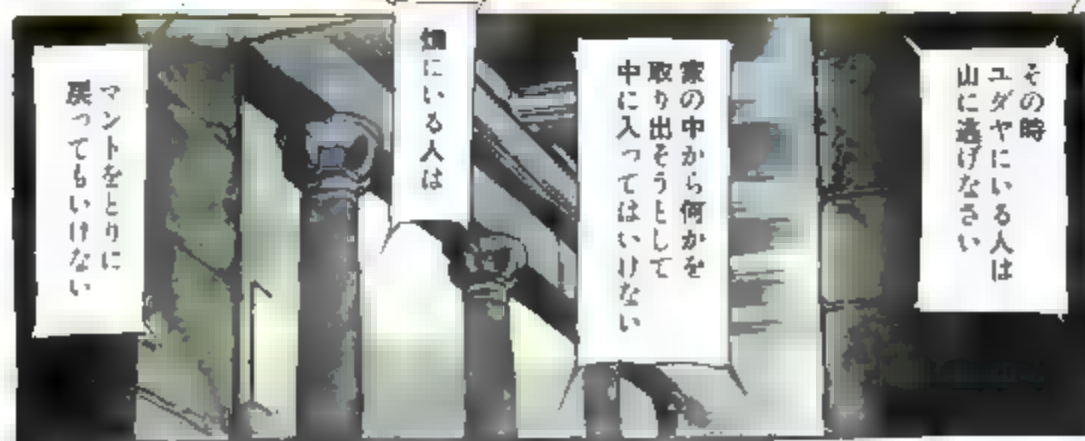
あんなに
威張りくさっていた
ヤツらが
——みんな!!

ああ
あれは
マグダラの
マリアだ

この人を
誰よりも好きだった
マリア……

エルサレムに
来ていたのか……

あれは ラザロの姉達だな
マルタとマリア……

こんな所に
いてもいいのか？

おまえたちにだって
お咎めが
あるかも
しれないのに
昨日までこの人と
いっしょにいたという
理由で！

男達は
どうしたんだ！

この人の傍にいて
この人のために祈るのは

女ばかりなのか!!

イエス
イエス
イエス……

わないのか!!

なぜ
いつまでも
黙って
いるんだ!?

イエス!!

ガリラヤ

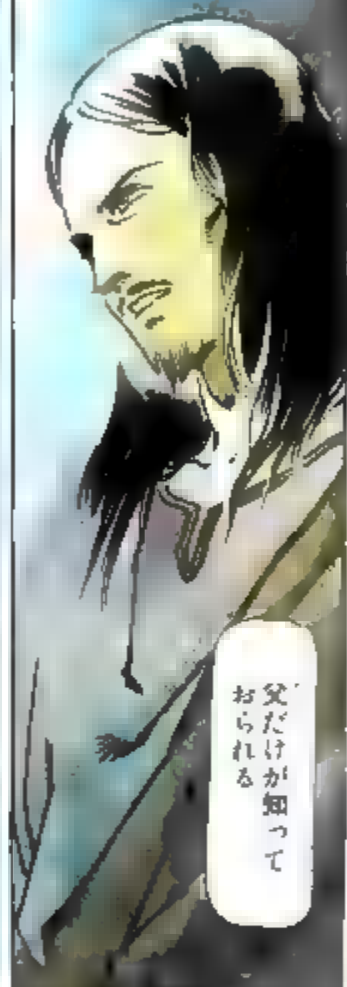
＋マルコ13・11～37（マタイ24　ルカ21）

そのとき
身重の女と乳飲み子を
持つ女とは不幸である
このことが冬に起こらない
ように祈りなさい！

それらの日には
神が創造した世界の初めから
今までにかつてなく また
今後もないような苦難が
起こるだろう！

もし 主がその日々を
短くしてくださらないならば
救われる人は一人もないだろう！
しかし――
主はご自分のものとして
選んだ人たちのためには
その日々を短くしてくださる！

それらの日は
この苦難に続いて
太陽は暗くなり
月は光を放たず
星は天から落ち
天のもろもろの力は
揺り動かされるだろう！！

その日 その時は いつなのか
誰も 知らない
父だけが知って おられる

気をつけて 目覚めていなさい いつその時が来るのか あなたたちも知らない からだ
それは丁度 家を後に遠くへ旅立つ人が 下僕達にそれぞれ仕事を 割り当てて責任を持たせ 門番には目を覚している ようにと命じるようなものだ
だから
主人が不意に帰って来た時 あなたたちが眠っているのを 見つけられることがないように 目を覚していなさい

家の主人が いつ帰って来るか
夕方か 夜中か 鶏の鳴く明け方か わからないから
目を覚して いなさい

どうだったか
あの男の話は
とてもいい 話でした
いつか神の国が来て 天の裁きがあるということを とても判りやすく話して いました
普通の 律法学者のように 堅苦しくなくて
それでいて なんだか
権威のある人の 話しぶりの ようで…

ぞっこん惚れ こんだか
けっこう だな
もっと 話を聞け
あいつが どんな男か
もっと探れ

神の国が来るとか
この世の終わりが来るとか
言っているだけじゃダメだ
そんなことはみな
律法に書いてある
彼方から軍勢が起こって
神殿城郭を汚し
常供の燔祭を取り除き
荒す憎むべきものを立てる
その時から
千二百九十日が
定められている

待っていて千三百三十五日に
至る者は幸いである
終わりまで汝の
道を往けば
汝は休みに入り
定められた日の
終わりに立って
汝の分を受ける

預言者
ダニエルの書だ
もちろん
知っているな

は
はいっ

ローマ総督ピラトが
彼らの汚らわしい軍旗を
エルサレム神殿に立てた
我らの抗議を
容れてそれが
キスレウ月第
神殿は異教徒に
汚された

ダニエルの預言の
「憎むべきもの」が
ローマの軍旗なら
神の国の到来は近い
今より数えて
もう二年にも
足らぬ目前だ

ならば
救世主が現れ
ねばならぬ
待ちこがれて
やまなかった
我らの
導き手が

ガリラヤから
よいものが出るとも
思えんが
ナザレの
イエス…
ちょっとばかり
気になる

女子供に優しい救世主か
まあ 別に悪くないが…

言っておいたはずだな
すぐにも弟子になれと
あ？

そ
そのつもりだったんだけど…
弟子だというおっかないのがもう大勢いて
その…

ぱしっ!

そのくらいでおめおめと引きさがったか
バカめ!

なんだ?

徴税役場が燃えてるよ

なんでも

エラく血の気の多い連中だっていうじゃないか

ロシュア

あ
ああ
……

昨夜の火事は
徴税役場だったそうだな

……
オヤジはいつもムッツリ押し黙っていて
無学なクセによく律法の巻物を読んでいた。

それきり仕事が
見たことがない。

オレはそのオヤジの後継ぎだ。
働けないオヤジに代わって小さい頃から大工仕事をした…

ヨシュア!
出かけるぞ!

叔父のハセム
オレに仕事を教えてくれた
だ。

今日もまたアビシャイの旦那のお仕事?

あの人はおっかないから

失敗して叱られないようにしてね
早く帰ってね
四つ年下の妹サラ
まだ子供なのに
オレとオヤジの
面倒をみてくれる
母親がわりだ…

マタイ!
大事な帳面がみんな焼けちまったそうだな

ローマへお納めするお宝も盗られちまったってな
そりゃあ大変だ
どうするよ マタイの旦那

天罰だ
ふだん威張りくさっていやがるからよ！
ザマーミロ！

災難だったな
マタイ

どうだろう
おまえの家で食事をさせてくれないか？

あの人が……
徴税人の
マタイ
なんかと……

おい おい

はやく行かんと!
仕事の時間に遅れて旦那に大目玉だぞ!

うわ!

ヨシュア!
コラ!!

なんてことだ
預言者のクセに徴税人と食事をしているぞ!
しかも楽しそうに話なぞしながら!

それになんとあの弟子達!
手も洗わず!

まるで異教徒のような振る舞いだ
いやはや…

ん?

!!

ナザレのイエス
弟子の躾がなっていないようだな

律法には食事の前に手を洗い清めよとあるか

どこに洗い鉢がある!? 手拭がある!?

教師ハゾル…

あなたは神の戒めよりも人間の伝承にしがみついている

ん?

なにを言っているのやらわからん!

ではもうひとつ訊くぞ!

ヘロデやローマの異教徒どものために税金を集めている徴税人は汚れた罪人だ!

義人たる者は近寄ってもならぬ!

わたしが来たのは正しい人を招くためではなく

罪人を招くためだ

なのになぜ

わしはその者の食客となるか!?

丈夫な人に医者は要るだろうか?

＊マルコ2ー17〈マタイ9 ルカ5〉

ええい!

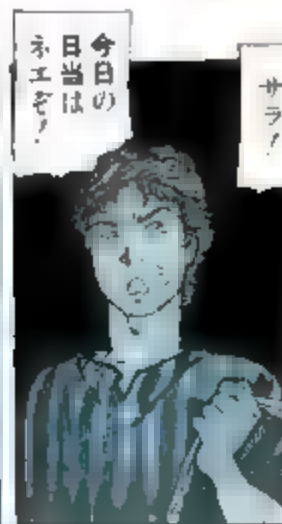
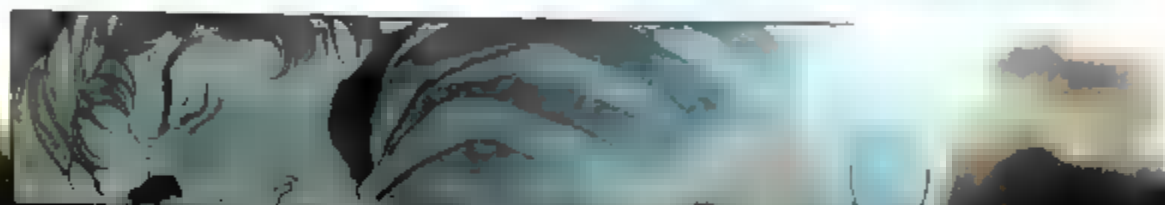
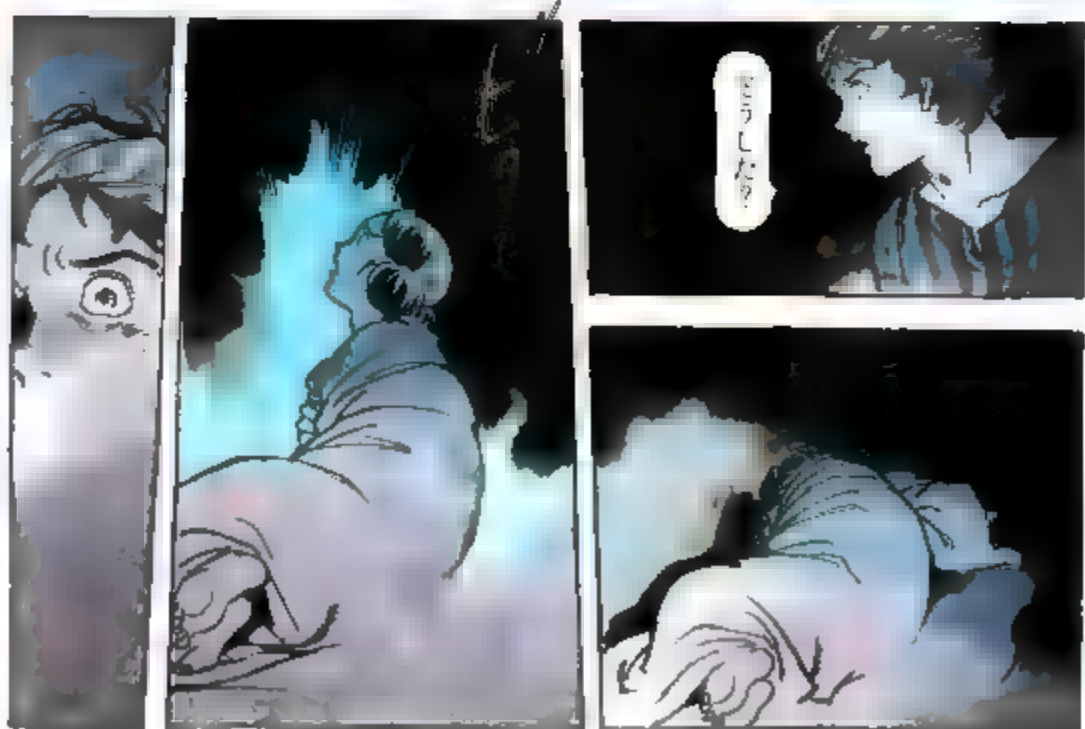
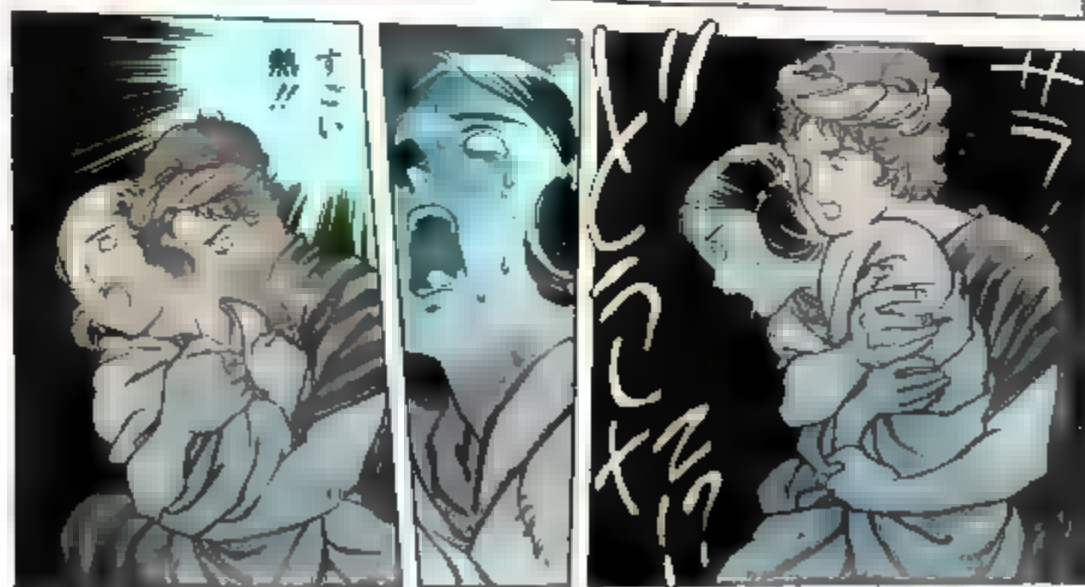
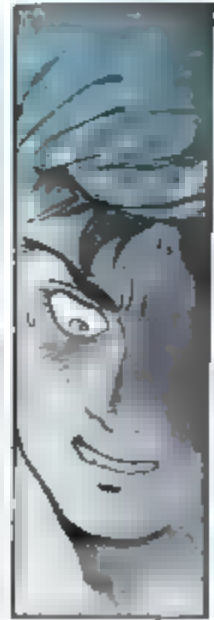
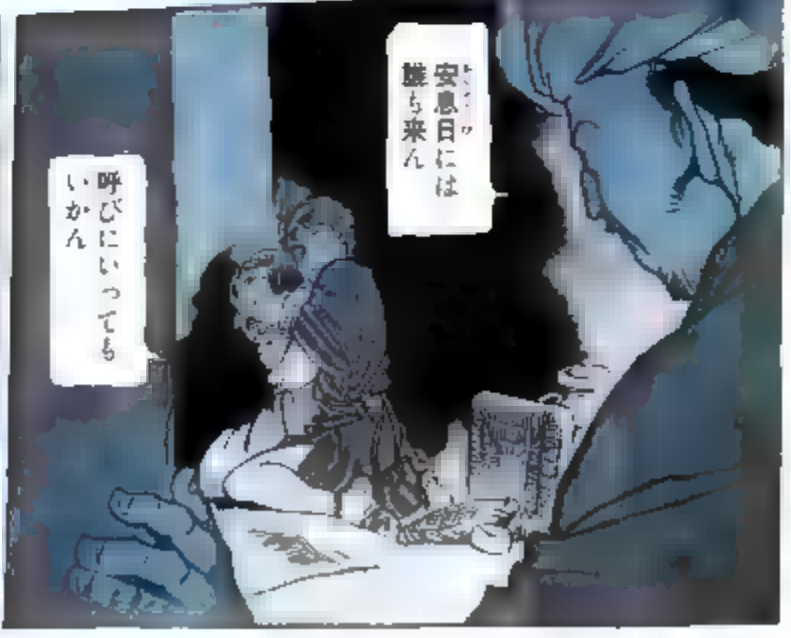
くだらん!!

ハナシにもなんにも

ならんわ!!

どの面をさげて
今頃 のこのこ出て来たんだ!!
なまけ者め!! ■れて■て 日当だけは 一日分取ろうと いうんだな!
ズルイ■だ そうはさせんぞ!!

カファルナウムにゃ 大工はクサルほど いるんだ!
おまえより安い日当で 喜んで働こうって奴が 順番を待ってるんだからな!
ハセムの弟子だというから 仕事をさせて やっているだけ なんだぞ!
つけあがりやがったら いつでも クビにして やる!
いいか!

ヨシュア
モーゼの十戒を忘れたのか

殺すな 盗
故意に人を殺した者は
死を以て 贖わねばならぬ……
わたしが来たのは 罪人を招くためだ
正しい人を招くためではない
来なさい
いっしょに をしよう
さあ!

サラ
どうした?
すごい熱!!

父!
サラが病気だ!!

大変だ!!
医者を呼ばないと

今日は
安息日だ

安息日には誰も来ん
呼びにいってもいかん

それじゃ……
サラが……

サラが
死んじゃう!!

父は
サラが死んでも
いいのか!!

いま
兄ちゃんが

あの人だ!

あの人に頼むしかない!

あの人ならきっと!

きっと!!

なんだ
こんな時間に
ナザレのイエス!?
知らねえな…
いいえ
どこにお泊まりかなんてねえ……
ヨシュアおめえ!
安息日にウロつくんじゃねえ!
なんでも今夜は
ペトロの家にいらっしゃるとか
ああ あの人
うちじゃお泊めしてないけど
イエス様はお休みだよ
疲れていなさるし
安息日には癒しはなさらないよ

おまえは昼間会堂で
わたしの話を聞いていたね
看てあげよう
ペトロ
まちなさい

熱いお湯を
持って来なさい

は
はいっ

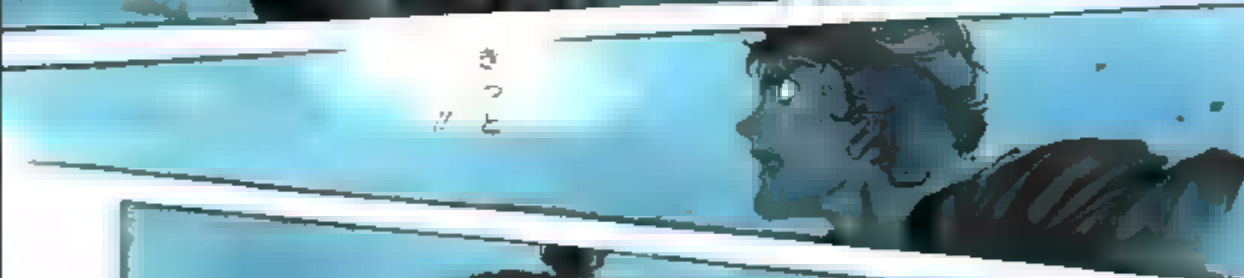
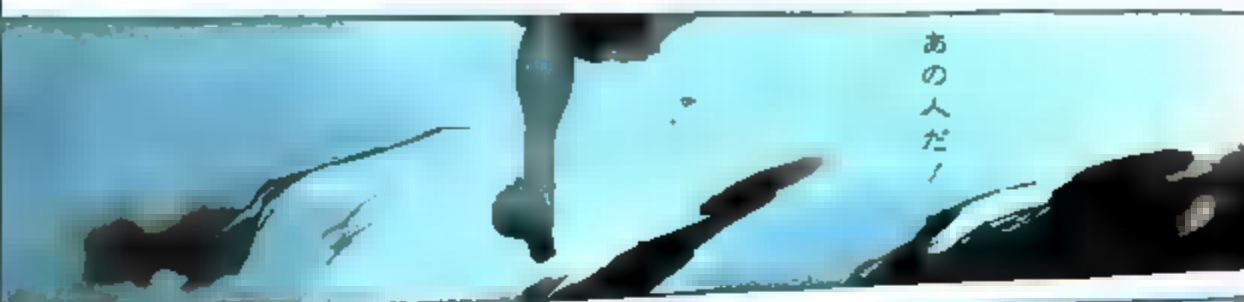
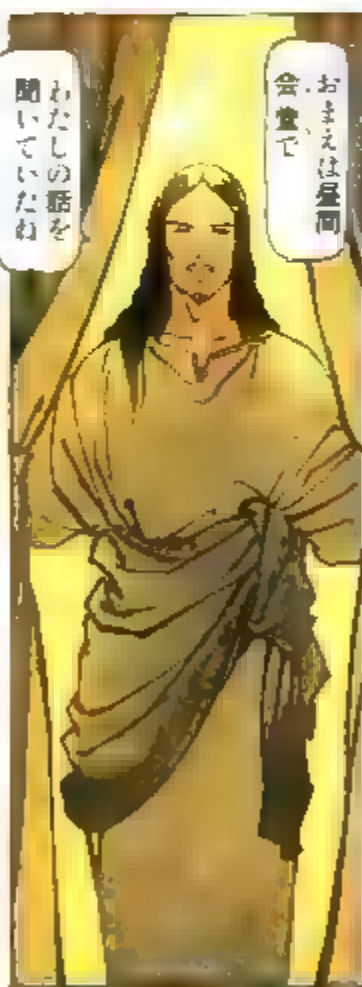
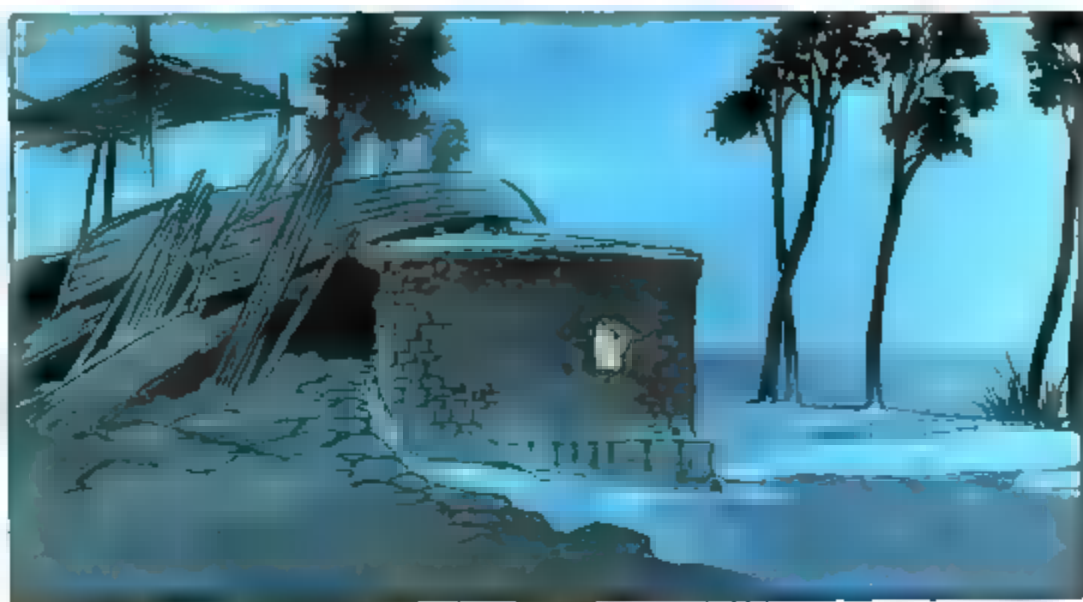
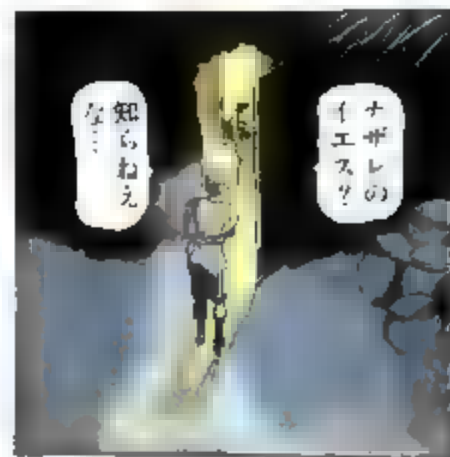
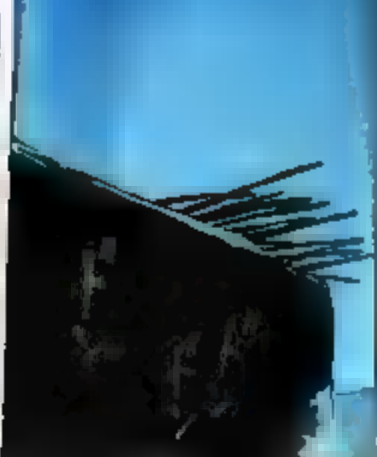
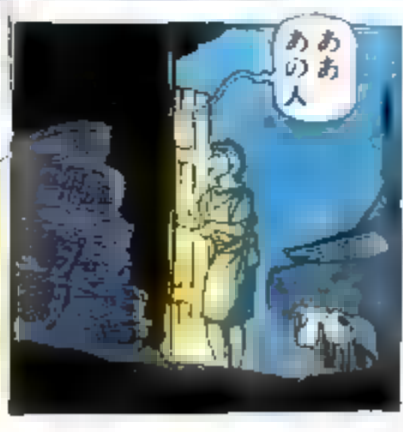
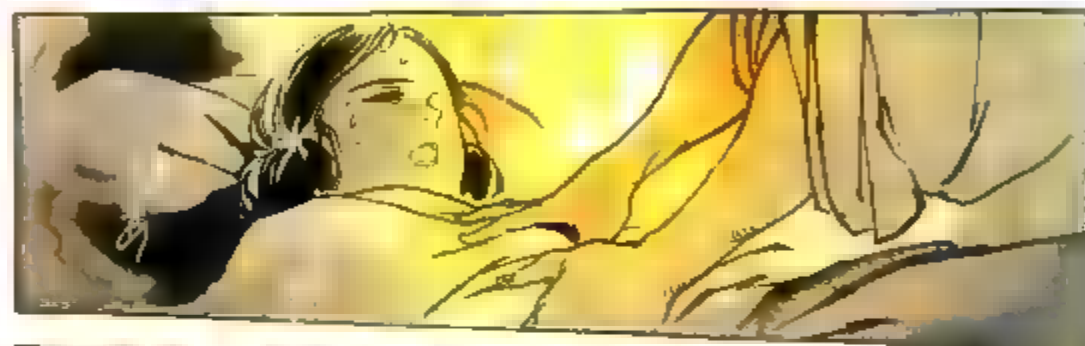
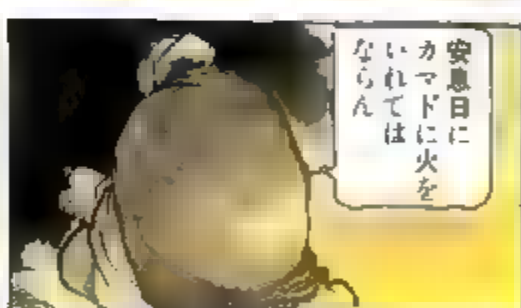
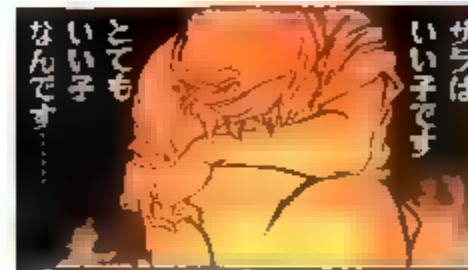
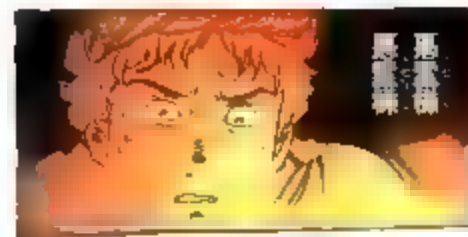
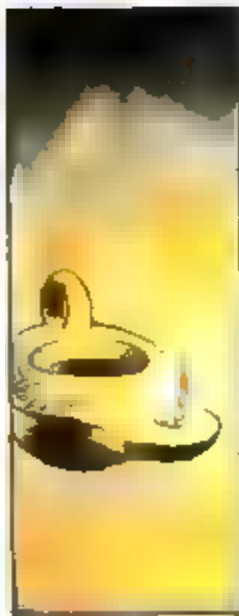
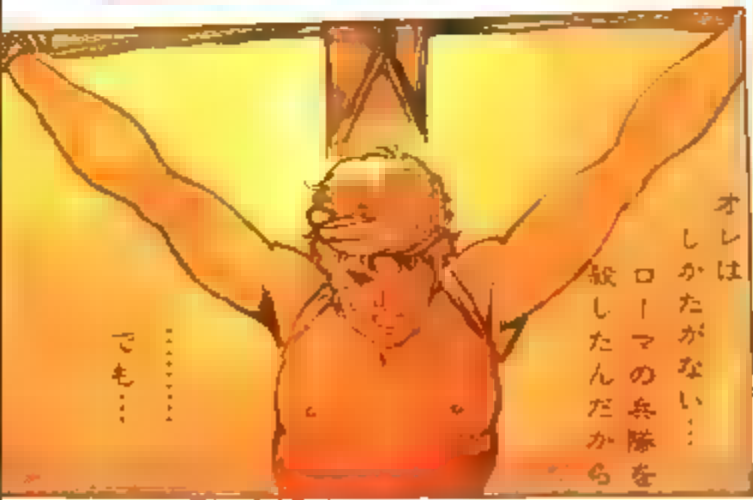
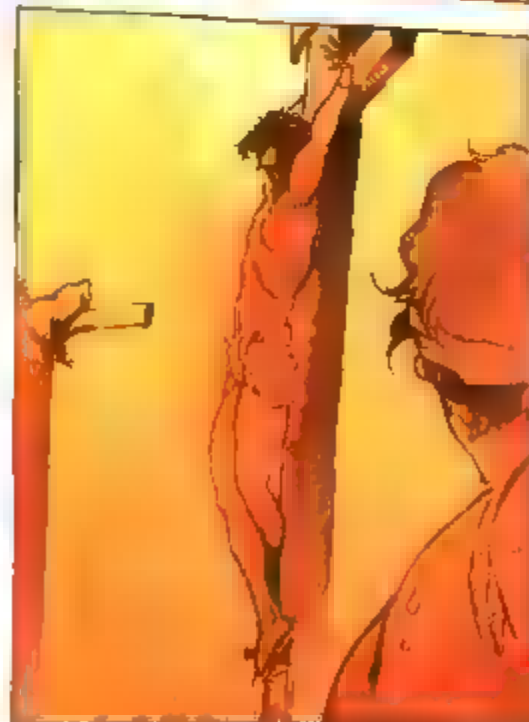
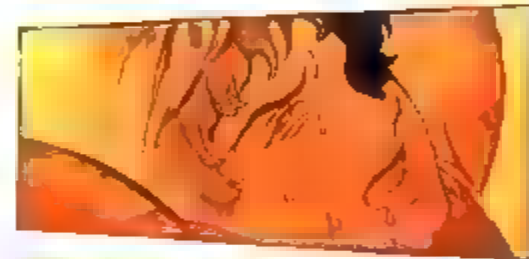
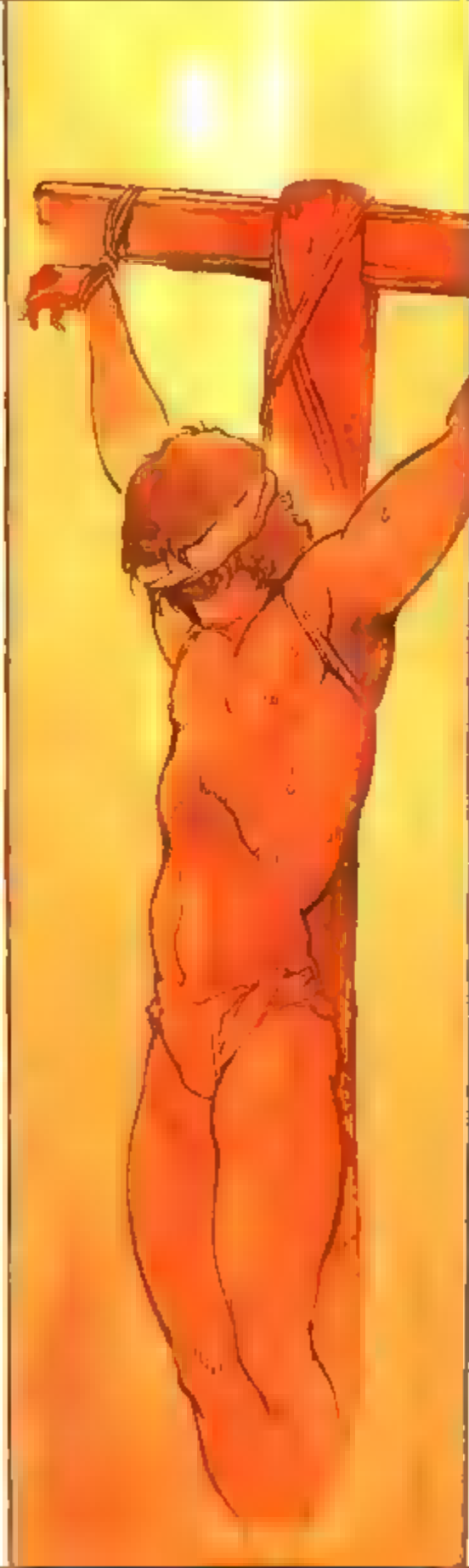
ヨシュア!!

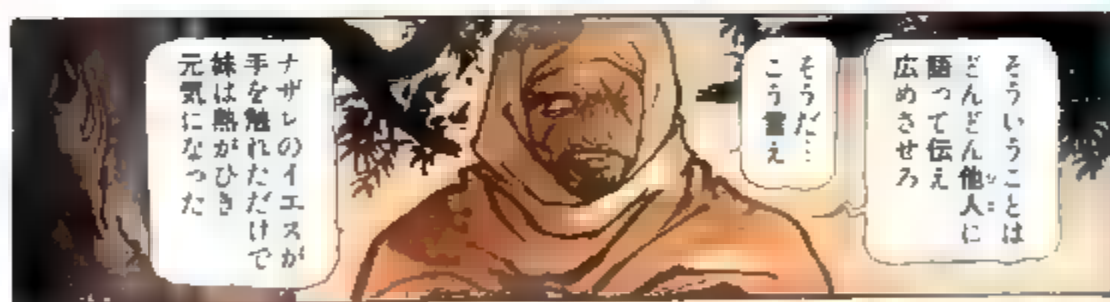
安息日にカマドに火をいれてはならん
わたしが許す!!
湯を持って来なさい!!

サラを
つれて
いかないで
くれ
サラは
いい子です
とても
いい子
なんです……

おまえの妹は良くなった
あとは好きなだけ眠らせなさい
……
悪霊は出ていったんですか？
ああ
出ていった
おまえの妹を思う気持ちが
悪霊よりも強かったのだろう

第2章

ナザレ

このひとは どんなにつらいだろう
オレでさえ こんなに苦しいのに……
釘付けにされている このひとは……
オレは しかたがない… ローマの兵隊を 殺したんだから
……でも……

そうか
妹がやつに
助けられたか…
それはいい

そんなんじゃなかったんです
あの人は夜通し妹を看てくれて
まるで親切な医者みたいに…

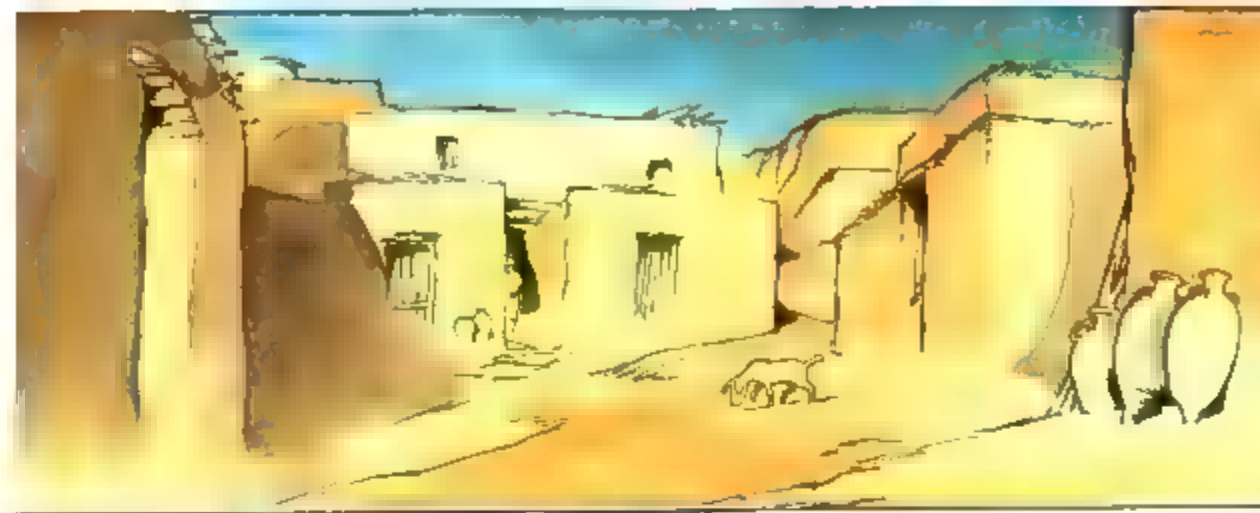
額をさすってくれたり
熱いお湯で温めてくれたり…

それでは奇蹟にならぬわ!!
救世主でなくともそのくらいのことはできる!!
やつが救世主なら噂されてもそれに応えられる!
逆に救世主ではないなら——

噂に負けて早々に消えていくだろう!
どっちにしろ噂を広めなければ真も偽も判らん!!
のんびり成行きを待つ時間は
残されていないのだ!

やつはそろそろカファルナウムを出る
その時は
やつについて行け
そして常にやつと共にいてやつを手助けし
神の国の訪れを待て

やりがいのある仕事だぞ
心してよく努めろ

……

困った時には
ハセム叔父さんに相談するんだ
オヤジには黙って行くけど

あとのこと
たのむ

あのひとは
おまえを救けてくれたひとだし…

帰って来るよ

あのひとの用がすんだら
すぐに

その時は
なにもかも今よりずっと
良くなっているよ

小僧!!
あんまり馴馴しく先生に近づくな!!
新米弟子はもっと離れていろ!!

それ以上のものが
領主のヘロデや
その上に立つ
ローマや
支配者に

熱心党は
貧しい人達から
支持されたが
でも
ローマの締め付けはますます
厳しくなり
人々は
ますます
貧しく
なった。

癒していなさる

汚れた者たちを……

感染らんのか

穢れに触れて……

水を……

水をください……

水

水を……

救世主といわれるお方

↑マルコ1・45（マタイ8　ルカ5）

先生
こいつらはみんな飢えていて
パンが欲しいって言っているんです

ならば与えなさい
へえ…
ですがねえ

さっきの病人達にもあげたので
パンも水も
もう少ししかありませんよ

おい小僧
ヨシュア！

町へ行ってありったけのパンと魚を買い集めて来い
大急ぎでだ！

は…
早く行け！
はい…
誰にも言うな
ダッ
はいっ!!
ああ
よっ
!
さあぁパンだ魚だ！
いくらでもあるぞ！
ほしいヤツは順番に並べ！
あわてるなよォ！

あのぉ…
なんだ！
割り込みは許さんぞ!!
そうじゃなくて…そのパンは……？
イエス様のお恵みだ！決まってるだろ!!
??

その時 オレは
初めて知った。
ナザレのイエスを
利用しようと
している者が
いるという
ことを…

エスを慕う
持ちからでなく
の理由で
イエスを救世主の座に
押しあげようとする
動きがあることを。

のことは
の後で訪れた
エスの
ふるさとの
ナザレで
もっとはっきりと
したのだけれど…

イエスが帰って来た！
マリアの子のイエスだ
ああ あの大工のヨシュア

救世主だって評判らしいぞ
まさか！
あいつならガキのころから知ってる！
ただの変わりものだよ
でも 弟子を大勢つれて

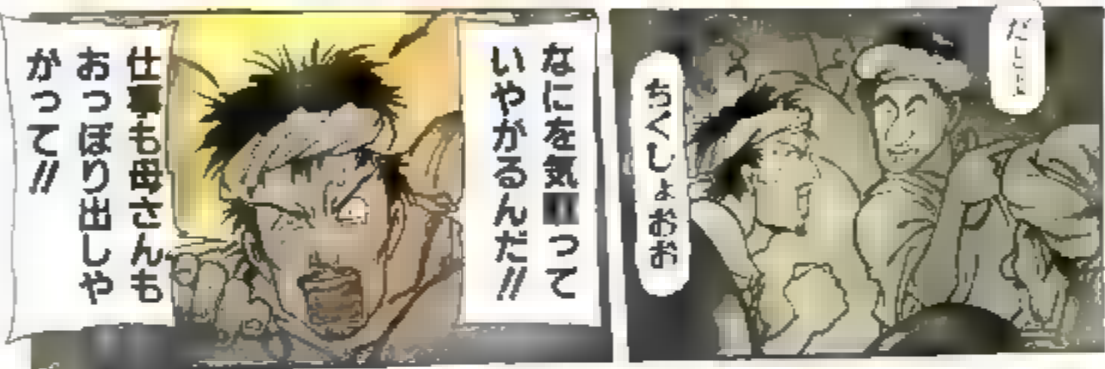
奇蹟を起こすことができるそうだ
ウソにきまってる！
しかしあいつが…
驚いたなあ
会堂で説教をするそうだ

とにかく聞いてみようじゃないか
面白そうだからな
あんちくしょう
いいかげんなことをぬかしやがったら…

おい
通してくれ！
あけて
くれ！
兄貴に
会わせてくれ！
弟の
ヤコブだ!!

先生！
御兄弟と
お母様が
入口に来て
おられるそうで
わたしの母？
わたしの兄弟とは
誰か？

†マルコ3（マタイ12 ルカ8）

見なさい
ここにいる
者達
この者達が
わたしの母であり
わたしの
兄弟である

ちくしょおお
なにを気■って
いやがるんだ!!
仕事も母さんも
おっぽり出しや
かって!!

そんなヤツの
言うことなんか
聞くな!!
そいつは
気が変に
なってるんだ!!
主の霊が
わたしの上に
おられる
主はわたしに
油をお注ぎになった
からである
†イザヤ書61

主がわたしをお遣わしになったのは 貧しい者に良いおとずれを伝え
捕らわれびとに釈放を
盲人に視力の回復を告げ
おさえつけられている者に自由を与え 主の恵みの年を告げ知らせるためである
嘘だあ!!

巻物を読むのはいい!
それよりなにかやってみせろ!

カファルナウムじゃ 病人をなおしたそうじゃないか!
パンだ!
パンをふやしてくれ!!
預言者は
郷里では受けいれられないものだ…

あなたがたによく言っておく!

昔 預言者エリヤの時代に 三年六か月のあいだ天は雨を降らさず に大 が起こった そのとき イスラエルには多くのやもめがいた しかし! エリヤはそのうちのだれの所にも されず ただシドン 方のサレプタにいる 一人のやもめのところにだけ遣わされた!
また預言者エリシャの時代に!
イスラエルには多くの い皮膚 っている人がいたが そのうちのだれも浄められず ただシリアのナアマンだけが浄められた!

どういうことだ!?
さあぁ
ナザレのものは
救われないというのか!?
なんだと!
とんでもないことを言いやがる!
なんにもできねえから
ゴマかそうというんだな!
嘘つきヤロォ!!
やっちまえ!!

先生を守れ!!

やめておくれ……

やめて……

息子に乱暴をしないで!!

やめてみんな!

やめて!
やめて!!
息子はなにも悪いことをしていないんだから!!
息子はいま疲れているだけなのよ!
そっとしておいてあげて!
せっかく…

せっかくイエスがわたしのところに
帰って来てくれたのに!!

第3章

サタン

ハラがへった
なあ〜
ちくしょお
ナザレのバチ当たりども…

ナザレになんか行かなきゃよかったんだ
聞こえるぞ！

おい やめろ！
麦の穂をつむな！
今日は安息日だぞ！
取り入れをしてはいけない日なんだ！
なあに かまうもんか
オレは
取り入れをしてるんじゃない
食ってんだ
ふうん
なるほど
そういえば
それも一理…
こうしてしみじみ味わってみると
麦そいもいい
食感もなかなか…
あ あの…
…
誰か
じっとこっちを…
………

行っちゃった
ちがうよ
言いつけに行ったんだ
また小うるさいラビどもに
御注進だぜ
けっ！
ほら来た
しらねえぞ
逃げるなペトロ！

†マルコ2:23〜（マタイ12　ルカ6）

むう…

安息日は人のためにもうけられた
人が安息日のためにあるのではない
なんと!!

そのような教えは聞いたことがないぞ
神は世界を創りたもうた時 六日働いて七日目には休まれた
―だから
神はモーセに十戒を示された折り 人に安息日の厳守を命じられたのだ…
安息日の定めは律法の中でもとりわけ大切なものであるはず…
それをそのように…

もう一度言う
安息日は人のためにもうけられた
人が安息日のためにあるのではない

わかった!
おまえはそのようなことを言う預言者なのだな!
偽預言者だ!!

調べておった甲斐があったわ!!
まっこと異教徒かぶれのガリラヤにこそふさわしいくわせ者だ!!
エルサレムに帰ってそう報らせておく!
あとで悔いてももう遅いぞ!!

見ろ ラビどもが帰っていく!
案外あっけなかったな

聞いたか!? 我らがラビの今の名文句!
うむ!
人が安息日のためにあるのではない
しかし
そんなことが律法のどこに……?
いいな

ペトロ! ヤコブ!
明日は夜明け前に発つ!
早く休め!
へえ
で
明日はどちらの方へ?
うむ
マグダラへ
行く

また マグダラだってよ
おお…
うちのラビはいいお方なんだが
あの女がな…

うれしそうだな
マリア

そうだろうなあ
なにせおまえはそうやってイエス様の足をふいて
そのごほうびで罪を
浄められたんだからな
ペトロ
皆の食事はすんだか
マリアだけに
話がある
まま…ペトロ兄
……
ムカ
ヨシュア!おまえも来い!!
なんですか?
みなさんコワイ顔で
ラビはオレたちが
ジャマだってよ!

かわいい弟子達にも聞かせられねえいいハナシをゆっくりおふたりでねっ
おたのしみなのさっ
あの…
マリアって女はいったいイエス様の……なに?
?
愛人だよ愛人!!
汚らしい淫売女だよっ!
それをよりによって
…ったく!

売女
淫売女!!
亭主の足が立たなくなったら さっそく男漁りか!!

この商売女!!
恥しらず!!

わたしも おまえが何者か 知っているぞ
熱心党の バラバだな
わたしに 付きまとって いるのは わたしの身を 滅すためでは ないのか

とんでもない
誰がそのような ことを申しました?
シモンですか?
それとも ユダ…

イスカリオテの ユダには お気をつけ ください
あの者は ヘロデの まわし者で ございます
おっと 余計な ことを
わたしは なにも
このような 告げ口のために あなたをお呼び したのでは ありません

「時」が参りました
エルサレムへ おのぼりください
会堂で あなたもお述べに なっているように
神の裁きの日が 近づいています

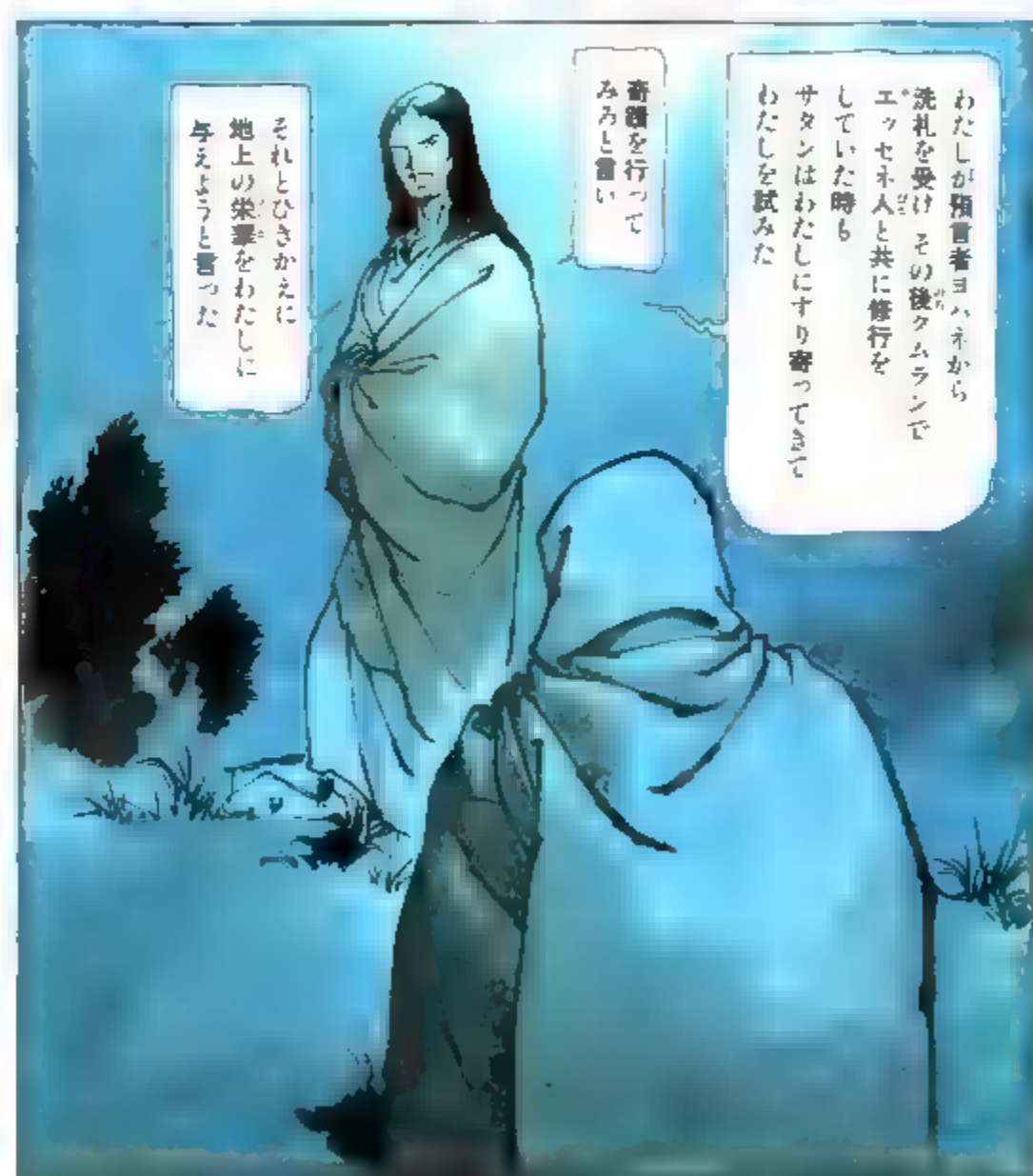
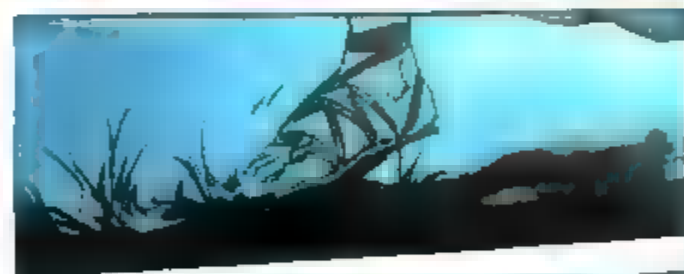
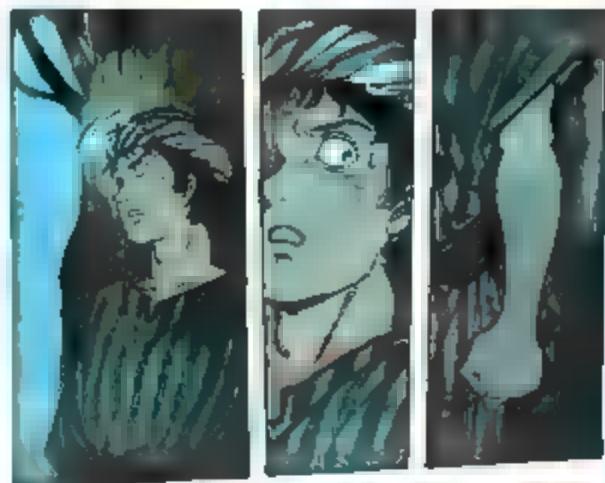
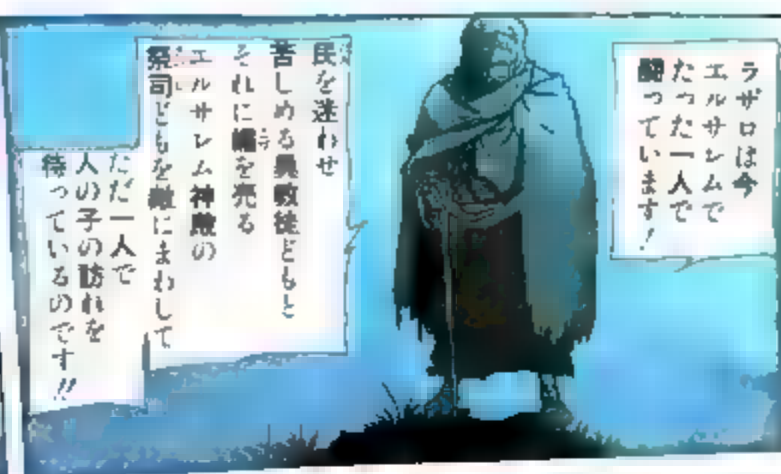
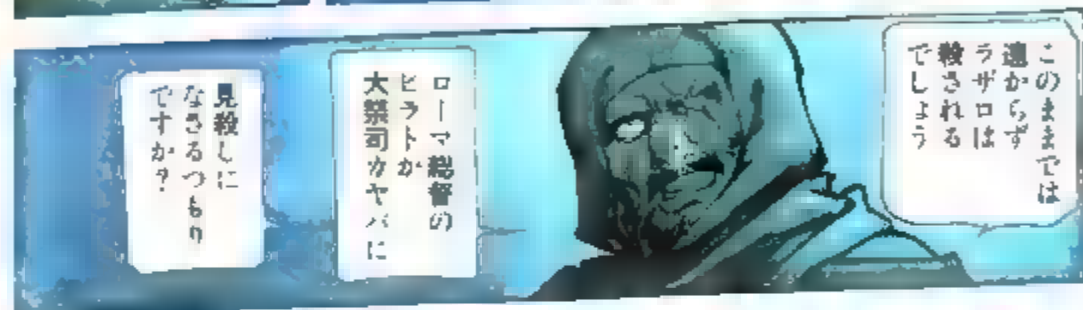
あなたこそ 救世主です
あなたの 説かれている 神から遣わ される 人の子自身です
どうぞ エルサレムの衆を お導きください
わたしは
心の貧しい ナザレ衆さえも 導びくことが できない

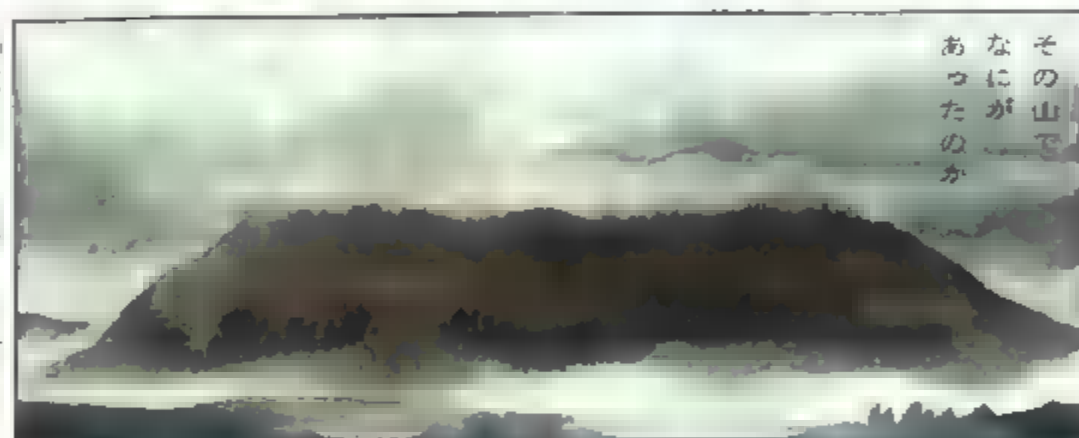
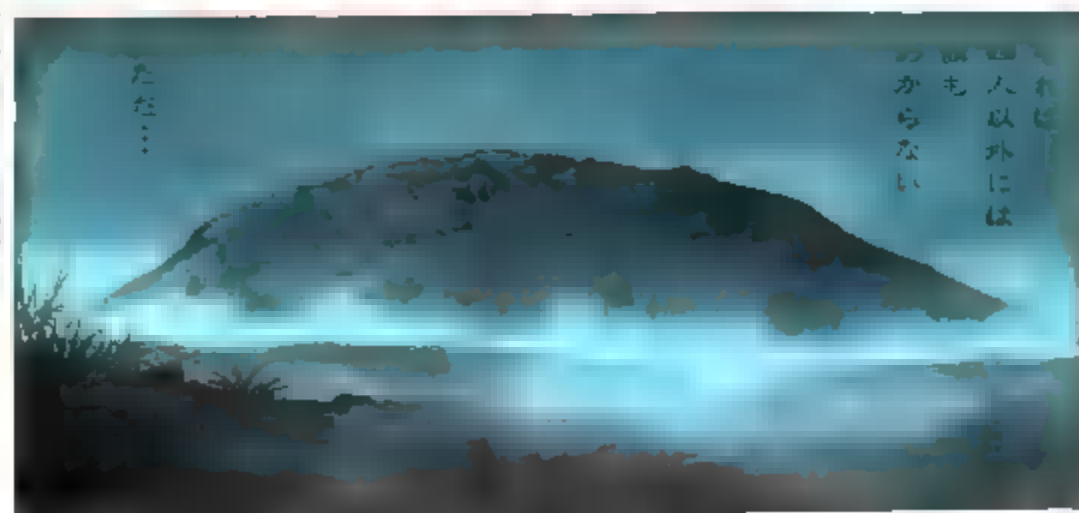
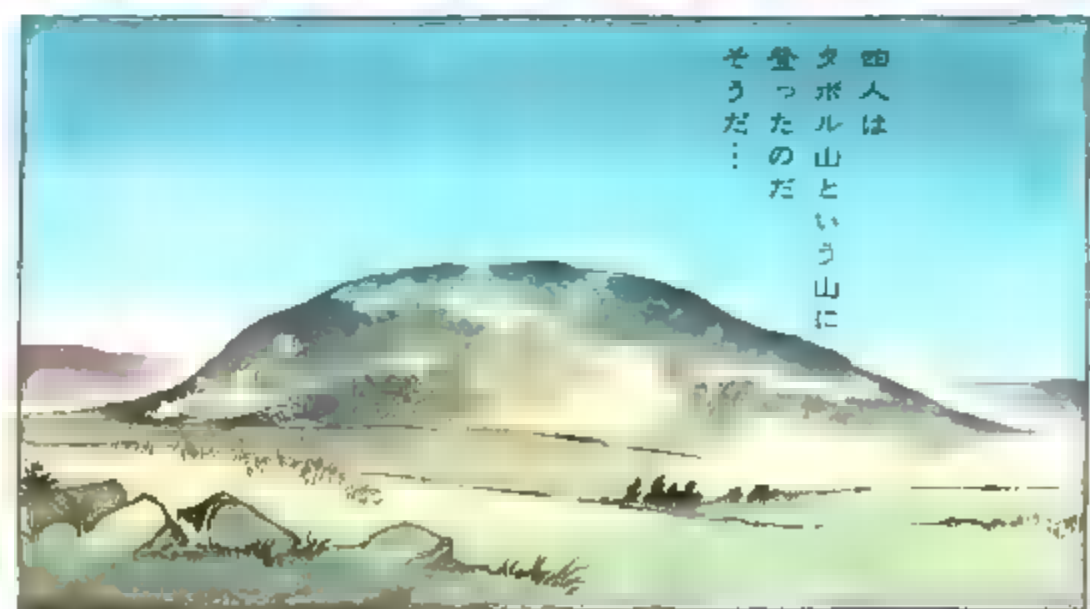
愚かなもの達は
しるしを求めます
そしてサタンもだ!
わたしが預言者ヨハネから洗礼を受け その後クムランでエッセネ人と共に修行をしていた時も サタンはわたしにすり寄ってきてわたしを試みた
奇蹟を行ってみろと言い
それとひきかえに地上の栄華をわたしに与えようと言った

どちらも
真の預言者なら望みはしないものだ

わたしは決してあなたを
試みてはおりません

ベタニアのラザロが
あなたを待っています!

あなたと共にいたラザロです!
ヨハネの最良の弟子のひとりのラザロです!

ラザロは今エルサレムでたった一人で闘っています!
民を迷わせ苦しめる異教徒どもとそれに神を売るエルサレム神殿の祭司どもを敵にまわして
ただ一人で人の子の訪れを待っているのです!!
このままでは遠からずラザロは殺されるでしょう
ローマ総督のピラトか大祭司カヤパに
見殺しになさるつもりですか?
すでに偉大なヨハネも殺された!
そのヨハネに自分は沓のヒモを解く値打ちさえないとまで言わせたというあなたがいつまでもこんなガリラヤの田舎で
愚か者達を相手にしていることはない!
ナザレのイエス!!
あなたは神の子だ!
救世主(メシア)です
あなたはイスラエルの民(たみ)を救わなければならない!

何日か後
イエスは ペトロと
ヤコブとヨハネの
三人だけを連れて
マリアの家を出た。

にをしに
ったのか
からなかっ
れど
あとで
聞いたところ
では

四人は
タボル山という山に
登ったのだ
そうだ…

その山で
なにが
あったのか

人以外には
も
からない
ただ…

山を下りて
イエスの顔には
厳しい決意の表情が
あり

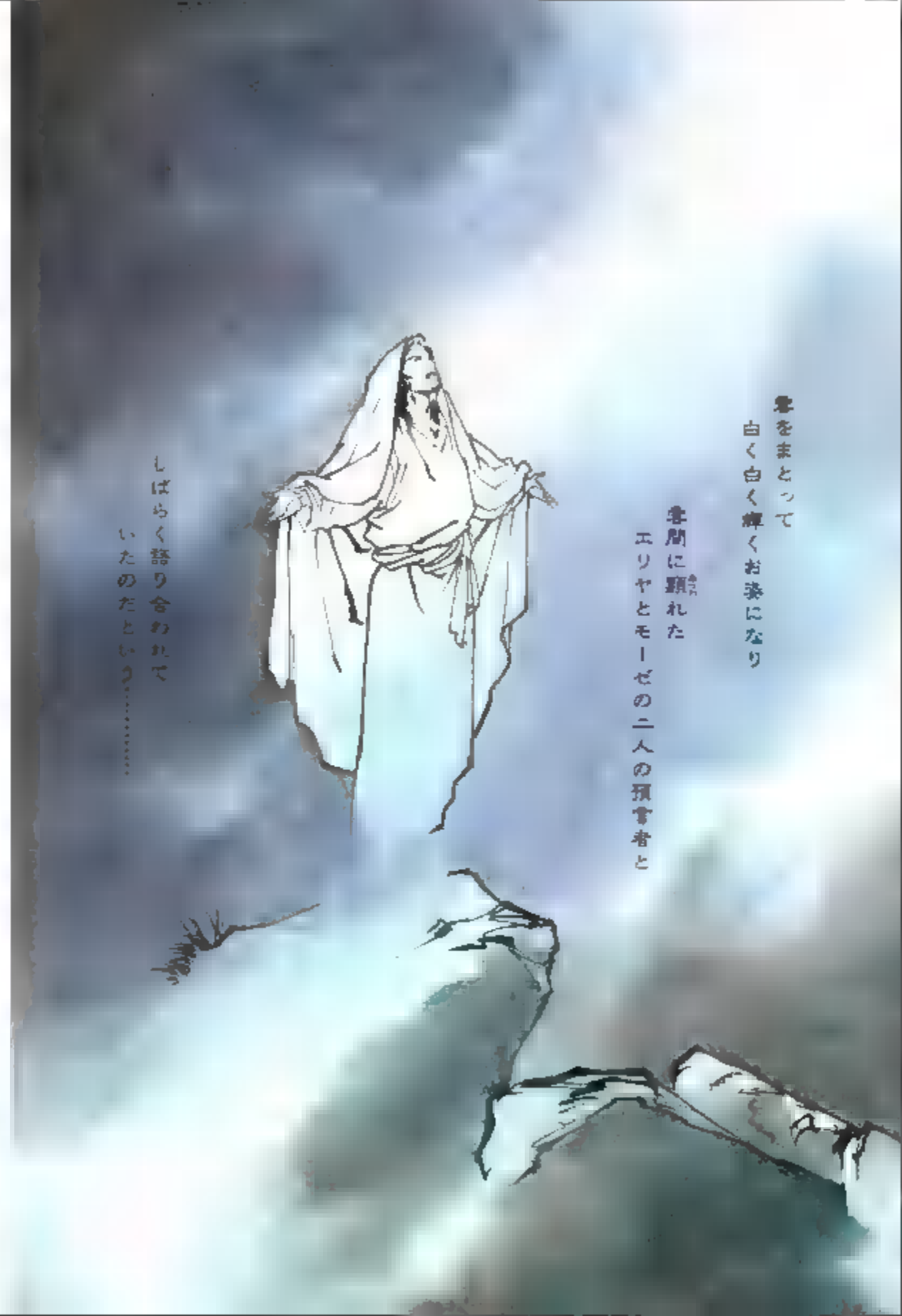
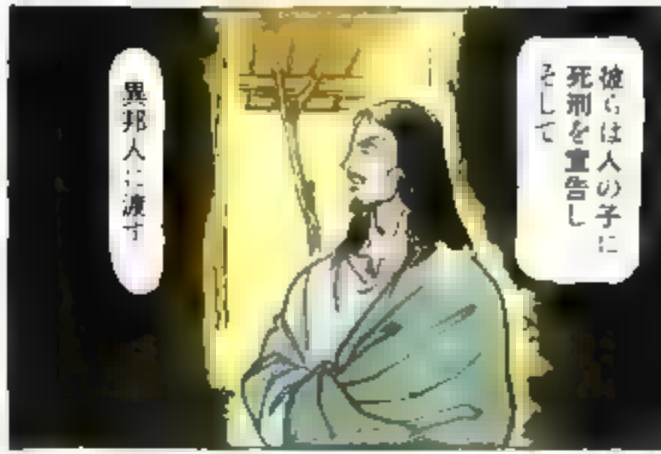
ペトロ達も
なんだか
人が
変った
ようだった

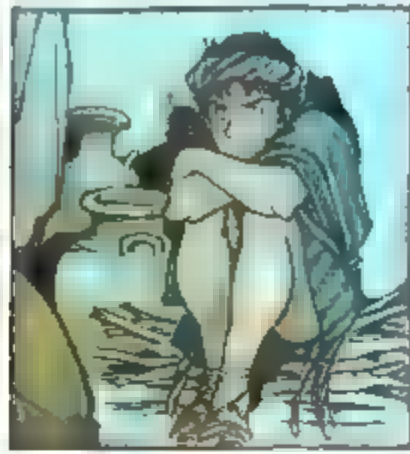
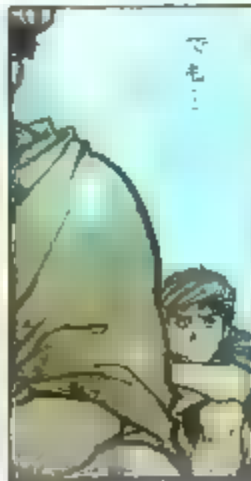
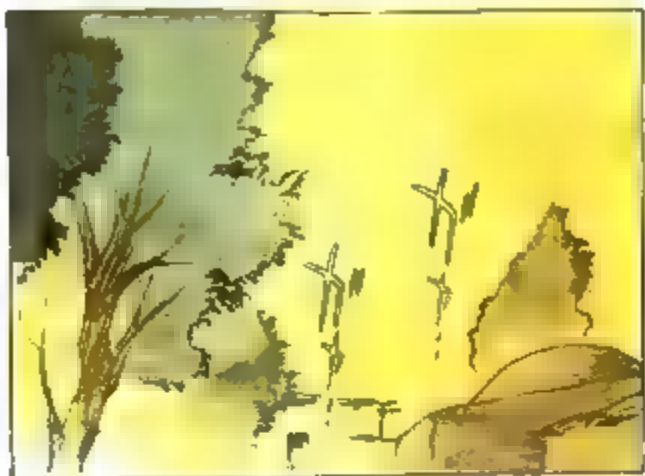
イエス様との
約束だと言って
三人はほとんど何も
話さなかったけれど

言葉数の多い
ペトロが
いつかポロリと
もらしたひと言
ある。

オレは
エリヤを
見たよ

あの方は
やっぱり
神様の御子だ…

これはずっと後になって
人の噂で知ったことだが
イエスはこの時
タボル山の頂で…

雲をまとって
白く白く輝くお姿になり
雲間に顕れた
エリヤとモーゼの二人の預言者と
しばらく語り合われて
いたのだという……

わたしは
エルサレムに行く

†マルコ10・33・34（マタイ10 ルカ18）

人の子は三日後によみがえり

天にあげられて神の右の座につく

わたしの後に従いたい者はおのれを捨て自分の十字架を担って

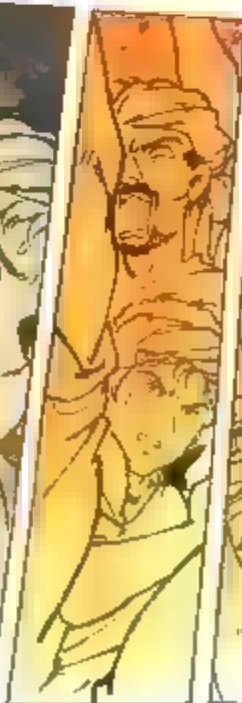
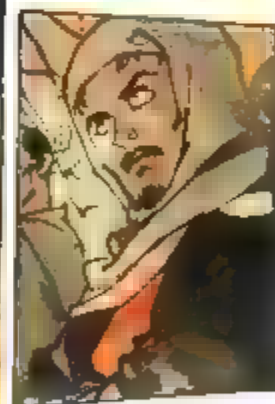
わたしに従いなさい

自分の命を救おうと望む者はそれを失い　わたしのためまた福音のために自分を捧げるものはそれを救うだろう！
神を捨てた罪深いこの時代にわたしとわたしの言葉を恥じる者に対しては
人の子もまたその者を恥じるだろう！
＋マルコ9－

よく言っておく！
ここに立っている人々のうちには
の　力をもって到来するのを見るまでは
死を味わわない人達がいる!!

おおおお！

エルサレムへ
行こう!!
おおお

第4章

エルサレム

ユダヤ人達の血が熱くなる季節なのだった。

いつも
いつの年も…

しかも
この時は
普段とは
違った

エルサレムでなにかが起きるのだという予感が——

——どの人の胸にもこみあげてきていた。

そして

イエスがエリコまでやって来た時

その出来事が伝えられた。

ピラトがあ!?

ん

兵隊を神殿に入れたそうだ

それで!!

ガリラヤの衆を殺したというのか!

棍棒で打って血がひどく流れた

死んだ者もいる!
ケガ人も大勢いる!!
それに…
シロアムの池の所にある塔が倒れて十八人も死んだ
おそろしいことだ なんの先触かと…
みんなが話してる

そのガリラヤ人たちは そのような目にあったがゆえに他のすべてのガリラヤ人よりも罪人であったと おまえたちは思うか
ルカ13

シロアムの塔が押しつぶした十八人はエルサレムのすべての人より罪人であったと思うか
そうではない

おまえ達に言う
おまえ達も悔いあらためなければ
みな 同じように滅びる

……

なんだ あの言い方は!!

あれではまるでやられた仲間のほうが悪かったみたいではないかっ!
救世主がきいてあきれるわい!
あんなのは

とんだ偽預言者だ!!
ま
まま
ま
うちの先生は譬えで話されるので
よくわからない……

決っしてそんな意味で言ったのではないと思うので…
どうかおさめてくれ
このオレにめんじて…

ペトロ!!

今すぐに
発つ!

はあ
それは
けっこうで…

そちらの者
名前は?
アゼルと言います

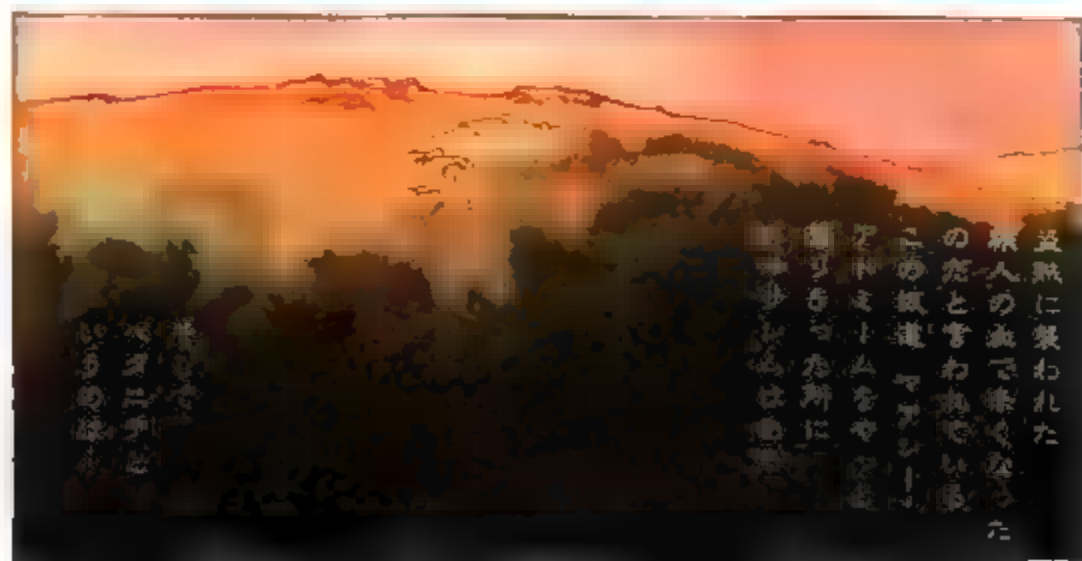
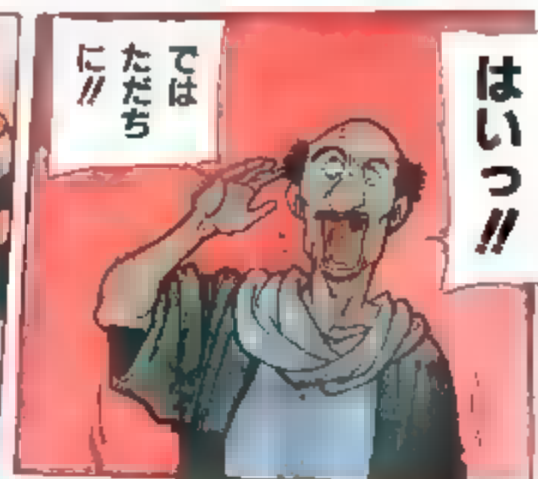
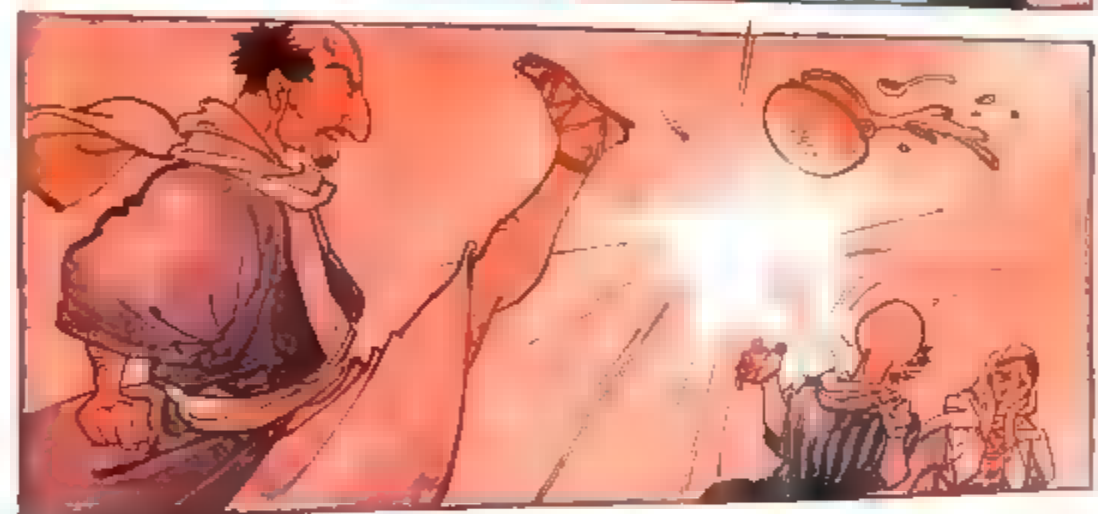
おまえもガリラヤの者だな

バラバに従いたければバラバと共に行け
わたしに従いたければ
ついて来るがいい

急ぐぞ
ベタニアのラザロのことが気になる

はいっ!!
ではただちに!!
あの…
食事の用意が出来たんだけど
これ…

救われたくないヤツはついて来るな!!
ハラがへって神の訪れを待てないようなヤツは
メシをくって○○して寝ちまえ!!
…なんだよ
自分だって
麦の穂をつんでおこられたくせ…
聖都エルサレムへ!!
裁きの時は近いぞ!!

エリコからエルサレムへはだらだらと続く登り道だ。
ガリラヤとは全然ちがう岩だらけの丘
そしてまた丘――
それがユダの荒野だ。

盗賊に襲われた

そのエルサレムを
見おろすオリーブ山の
山腹にある
小さな
ひっそりとした村だ。
ラザロ？
……
ラザロは…

ああ！
イエス様

遅うございました
兄は……

死んだのでございます

ローマの兵隊に打たれた傷が膿んで
ひどい熱が出て苦しんだ末に……

わたしたちは騒ぎが起こった時兄を止めました
神殿へ行かないように
騒ぎに巻き込まれるからと
でも

兄はローマの兵隊と
ガリラヤの人達の間を分けようと…

……

ラザロを
どこに葬った？

言いなさい
どこか
でも…

もう臭くなっています…
死んで
四日にもなりますから

そんなことはない

わたしをそこへ連れていって
入口の石を取り除きなさい

この時 オレは 家の中の やりとりを 知らなかったから

イエス様が 墓穴の前に 立って いったいなにを しようとして いるのか まるで 判らなかった

ただ なにかが 起ころうとして いるのだという 予感はあった 同じような 気持ちで——

周りに集った 弟子や村人達も たぶん イエス様を見て いたのだろう

その大勢の目の前で イエス様は墓穴の入口に 歩み寄り

そして

言ったんだ

ラザロよ

出て来なさい

イエス様!

ラ… ラザロは!

わたしは 復活であり 命である

わたしを 信じる者は…

たとえ 死んでも

生きる

見なさい

†ヨハネ11:25

おおう
†ヨハネ11 41
父よ
わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します
あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを
わたしは知っておりました……
布をといてやって
家へ連れていきなさい

ナザレのイエスという男
まことにそのようなことを行ったのか

一度死んだ者を生き返らせたというのだな
ベタニアのラザロを

確かにおまえは見たのか

これを

はい
ううむ……

ふん!
悪魔つきめ!!

パリサイ派のヤツらが死人は復活するなぞといって無知な下々の者どもをたぶらかしておるから
変なのが出る!
せっかくあのヨハネがいなくなって世間が少し静かになったというのに!

アンナス様
いかがいたしたものでしょう

イスカリオテのユダというたな!
その方

おまえはどう考えるな!
そのイエスという者がいろいろとしるしを見せ
民衆を煽るのをそのままにしておけばどうなると思う?

民は
彼を信じるようになります
そして

それを良しとしないローマ人がやって来て
我々の聖なる場所と国民とを征服してしまうでしょう!
そして……?

……む

殺すしか
ありません

カヤパ
おまえもそう思うか

その者の言うとおりです
おろかな庶民どもはその者をかつぎローマを追い出せと騒ぎたてるでしょう

しかし…
その者がもしも本当の救世主だったらどうする!?
我々は大罪を犯してしまうのだぞ!

要らぬ御心配です 御義父上
救世主なら彼は死にませぬ
神が救けたまうでしょう

ん…
道理だ…

†ヨハネ11:47〜53

ラザロのことが
大変な
噂になり
ベタニアの村には
大勢の人々が
集まった。
その人々が
やがて村から
あふれ出るように
エルサレムへと
押し進んだ。
オリーブ山の
坂道を登る人々は
だからまるで
その全部が
イエス様の
付きびとの
列のよう
だった。
オレも
誇らしい
気分だった。
なんだか
都に入城する
ダビデになった
ような
そんな気さえ
した。
だから
イエス様の
周りにいる
弟子達の
なかに
イスカリオテの
ユダがいない
ことも
気付いては
いたけれど
気に
ならなかった
うしろの者達は
さっきから何を
言い合っている
のか？
ヨシュア

†マルコ9（マタイ18 ルカ9）

†マルコ10（マタイ20 ルカ）

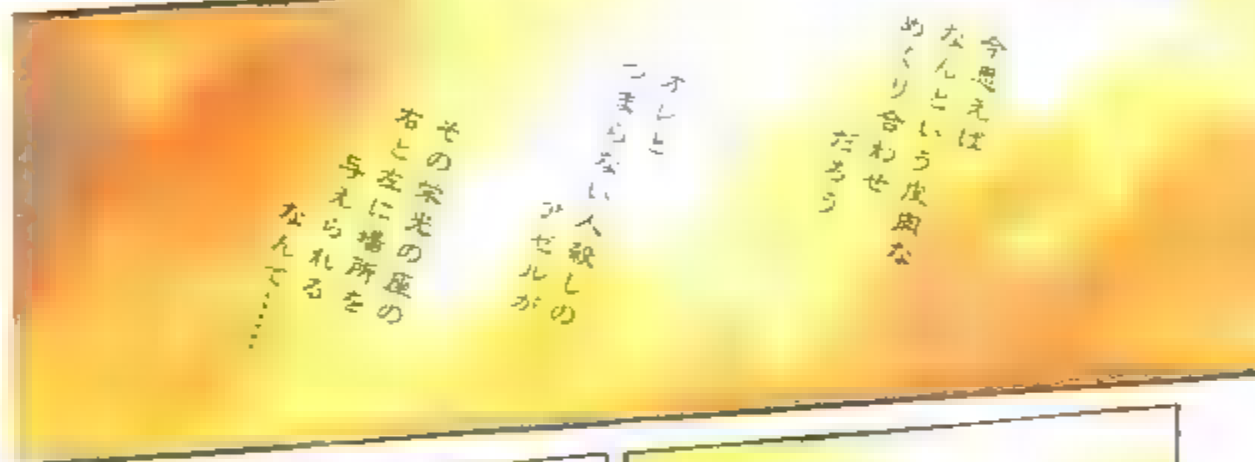
†マルコ10

弟子達の愚かさがこの時オレにもよくわかった。

心の冷たい律法の教師や
いばりくさった司祭達よりも
ずっと高いところに
なんの災いも受けずに
この人が立てる
ようにと……

それにしても……

ここが
エルサレム……

ああ…

屋根飾りが金色に
光っているのが
ヘロデ王の建てた神殿

雲ゆきが変になってきたな

こいつらが事切れる前に一雨来るかもしれん……

な…なんだか…
おい
なにか起こりそうな……
天使が降りて来るんじゃないのか!?
なにか言っているぞ…
エリヤを呼んでいるんだろうか
ビクビクするな!!

いいぞ！
奇蹟だ!!
む……

おおう!!

うろたえなさいますな
御義父上

至聖所に!!

落ち着きなさい
アンナス様!!

大丈夫です
あのような者に神が依り憑いたりはいたしませぬ
あのようなものに……

ドドオオオオ

ああああ
わが神†
わが神
†詩篇第二十二編
なにゆえ
わたしを
捨てられるのですか